

善隣

No.484 通巻751

2017年（平成29年）10月1日発行（毎月1日発行）

2017 10





中国科学技術交流センターの劉哲担当・吳程副主任・劉曉燕通訳



「日中国交正常化45周年」北京市・甘肅省の旅（7月22日～29日）

〈撮影：村田嘉明〉

善 隣 目 次 2017年10月号

公開講演会記録

フランス大統領選挙とEU・ユーロ体制	荻野文隆	2
北風が嬉しい！環境担当書記官 —北京3年半の仕事と生活	井上直己	10
海を渡った「芥川賞」	鶴留エマ	18

中国ウォッチング	編・訳 上松玲子	26
----------------	----------	----

会員彼是

折り紙自販機	中川啓造	28
国際善隣協会「日中国交正常化45周年」北京市・甘粛省の旅 —“越过火焰山朝西天取经”	日野正子	29

コラム〈腰折れ文〉二、	渡邊澄子	30
-------------------	------	----

陶々俳壇	馬場由紀子選／橋本公佑	31
------------	-------------	----

協会通信・同好会だより		32
-------------------	--	----

みんなの写真館		32
---------------	--	----

2017年10月の行事予定		33
---------------------	--	----

◆原稿・写真など大募集◆		30
--------------------	--	----

善 隣 第484号 通巻751号

2017(平成29)年10月1日発行

発行所 〒105-0004 東京都港区新橋1-5-5

一般社団法人 国際善隣協会

TEL 03(3573)3051

FAX 03(3573)1783

発行人 矢野一彌

印刷所 (株)ゆにおんプレス

定価 一部400円 年額4,800円

振替 00120-0-145956

国際標準逐次刊行物 ISSN 0386-0345

©禁無断転載

公開講演会記録

フランス大統領選挙と
EU・ユーロ体制

東京学芸大学教授 パリ第三大学文学博士 荻野文隆



フランスは現在、5年任期の大統領制をとっており、2017年5月7日大統領選の決選投票では、エマニュエル・マクロンが第五共和政第8代大統領として選ばれた。メディアの報道では、2007年の右派の人民運動連合大統領ニコラ・サルコジ、2012年の社会党フランスワ・オランド大統領に次ぐ中道派大統領の誕生ともっぱら報道されている。しかし、この社会党出身の大統領は、政策的にも人脈的にも、第一期目の任期末には既に壊滅的な支持率に終わった社会党のフランソワ・オランド大統領の後継者といっても過言ではないのである。実際、オランド大統領の経済顧問であった彼は、2014〜2016年には、マニユエル・ヴァルス内閣の経済大臣として、労働法の解雇条項などを緩和するエル・コメリ法など、多国籍企業優先の政策を実行し

てきたのである。社会党内では、左派からの激しい批判にさらされながらも、社会党右派の支持を背景に、そのEU路線を突っ走ってきた。そして、大統領選では共和党の左派を取り込むことを視野に入れながら訴えてきたのが、サルコジ政権、オランド政権の進めてきたEU推進路線の強化であった。EU批判陣営が、左右両極に分断されるなか、体制翼賛型の体制が出現したのである。

EUによる左右対立の無効化

1958年に始まったフランス第五共和政の下での大統領選のなかでも、今回ほどに予測困難な選挙はなかったといえる。それはまさに、この左右の政治理念上の対立の無効化が顕在化した点にある。その状況は、右派のサルコジ大統領が選ばれようが、左派のオランド大統領が選

ばれようが、推し進められた政策はほぼ同様のものであり、産業の空洞化と失業率の上昇を食い止めることができなかったという事実において、既に政治的現実となっていたのである。それが左右の政権政党の存在そのものに疑問符を突き付けた形になったものであった。長年にわたって交互に政権を担当してきた社会党と共和党（改名前は人民運動連合）の公認候補がともに決選投票に残れなかった。と同時にEU・ユーロ推進路線の強化を前面に掲げた人物が大統領に選ばれた。つまり従来の主要政党が壊滅的な結果に終わったにもかかわらず、新大統領に選ばれたのは、政策的には、それらの政党が実施してきた政治をさらに推し進めようとする人物だったのである。まさに、右派政権も左派政権も政策的には違いがなくなっていた政治状況のなかで、左右

対立というイデオロギーを抛りどころに存在してきた政権政党が淘汰されたのである。実は、このようにフランスにおいて左右対立を無効にしてきたもの、それは他でもない金融界と多国籍企業の狩場としての市場の構築に邁進するEUの存在なのである。そこでは、従来の政策を新しい装いで粉飾しようとする試みが展開したのであった。

この状況がはらむ重大な問題は、ヨーロッパ統合のプロセスが、ひとつの政治的な臨界点に達していることを意味していることだ。そこで密かに問われているのは、ユーロとEUの存在そのものの是非であり、EU諸国の主権と民主主義の奪回の問題なのである。

ユーロとEUの構造的な欠陥

ではEUとユーロがなぜこのような政治理念における対立の無効化をもたらしたのか。それは先ず、EUとユーロが掲げてきた看板に偽りがあったという点に尽きるのである。高い経済成長率を約束して導入されたユーロは、実際は、経済的な停滞の根本的な原因となっているのである。そこには、各国の持つ産業効率の違いを無視した経済幻想があったのである。ユーロ導入前には、各国が自らの

主権のもとに通貨の切り下げを含めた通貨政策の実施によって貿易のバランスを調整できたが、ユーロはそれを不可能にしたのである。1999年のユーロの導入以来、歴史的に産業効率の高いドイツが、次第に膨大な黒字を作り出すなかで、フランスを含む南ヨーロッパ諸国は、産業の空洞化と失業率の上昇に歯止めがからず、財政赤字を計上し続けてきた。

それに伴って歴代の左右両政権は一貫して緊縮政策を推し進め、社会保障、医療、教育などの劣化と公共サービスの民営化を進めてきたのである。フランスの左右両陣営の政権政党はともにこの方向で共通した道筋を歩んできたのである。フランスでは、ユーロ導入による貿易バランスの歪みが、深刻な状況に達しようとしていた。

2015年のギリシャの金融危機は、この歪みの顕著な現われであった。しかもこのギリシャ危機の際に、ヨーロッパ当局が見せた対応は、一般の多くの市民を憤らせるものであった。EU当局は、EUの経済規模の3%に過ぎないギリシャの財政危機を、EU内の相互援助によって救おうとする意思を示さなかったばかりか、ギリシャ市民の民主的な意志をEU官僚制の意志が踏みにじるものとなった

たのである。これは、自由で平等な加盟国の相互扶助によって繁栄と平和を築くはずだったEUが、強者が弱者を踏みつぶす巨大なメカニズムになっていることが明らかになった瞬間であった。

ギリシャ危機の実態

ギリシャの金融危機とは、ギリシャそのものの問題ではなく、このようなEU・ユーロ体制の構造的な欠陥の問題だったのである。とりわけ、ギリシャのようにユーロ圏内の他国に比して経済規模が小さい国にとっては、その欠陥は、いち早く深刻な状況を作り出すものであった。ユーロの導入は、自国通貨であったドラクマの切り下げによる輸出力のバランス調整を不可能にしたことでギリシャ経済に大きな打撃を与えた。トルコや北アフリカ諸国への輸出が減少したばかりか、観光産業もユーロの水準が高すぎるために、通貨の安い近隣諸国に旅行客を奪われて次第に不振に落ちるようになったのである。

加えて、ユーロ圏の一部となったことは、国外の大手銀行にとってはドラクマの切り下げ不安が解消したことを意味したために、ドイツとフランスの大手銀行によるギリシャへの常軌を逸した貸し付

けが加速する事態が起こったのである。まさに、EU・ユーロ体制によって、ギリシャにバブル状態と経済不況が同時に出現したのである。そして税収が激減するなか、2011年、リーマン・ショックのあとを受けた第一次ギリシャ危機がやってきた。そこでの切掛け策は、緊縮政策の実行を条件としたヨーロッパ、IMFからの金融支援であった。しかしそれは問題解決を先送りするだけの対応にすぎず、ギリシャ市民の生活は悪化の一途をたどったのである。そのような状況で起こった2014年暮れのギリシャの政権交代は、臨界点に達していた市民の不満が、事態の根本的な解決を求めた市民の意志の表明だったのだ。しかしEU当局は、EU加盟国の市民の生活には全く関知しない対応を示したのである。これはEUが、多国籍企業体と金融界の利益を代弁する組織であることからくる当然の対応であるのだ。6か月の交渉の結末は、チプラス政権のEU官僚制への無条件降伏であった。そこにはEU官僚制に反旗を翻しながらもEU離脱へ踏み切ることができなかったギリシャの悲劇があったのである。

その結果、支払期限が来た借款の利子を払うために妥結された策は、ギリシャ

国家の借金をさらに増大させるとともに、支援の条件として、年金など公共サービスの水準の引き下げ、公共財の国外の民間企業への払い下げなどが求められたのだ。またギリシャの国家財産を国外の銀行と企業の利益のために売却するというものであった。このことによって、ギリシャ市民の生活は、さらに困難な状況へと追いやられるとともに、ギリシャ経済の瓦解が進んだのである。ユーログループが支援を決めたと報道されたギリシャ危機の救済策の救済対象は、実は、ギリシャの市民ではなく、ギリシャに金を貸していたドイツとフランスの大銀行だったのである。

Brexitが意味するもの

このようなEU当局の強圧的な対応に、EU諸国の多くの市民が不安を覚えるとともに、反抗の意志を奮い起こしたとしても不思議ではなかった。ギリシャ危機からほぼ一年が経過した2016年6月24日、その反抗の意志はイギリスで確認された。この日、イギリスの有権者たちは、EU離脱が残留かを問う国民投票で離脱を意味するBrexitを選んだ。マス・メディアのほとんどがBrexitはイギリスに壊滅的経済状況をもたらすとする

「Project Fear」によるネガティブ・キャンペーンを展開したにもかかわらず、イギリス市民は離脱を選んだのである。この市民の判断を受けて、残留派のキャメロン首相は速やかに退陣し、代わって政権についたテリーザ・メイ首相は、EU離脱へ向けて舵を切った。

その結果もたらされたのは、恐怖を煽る圧倒的なメディアの報道に反して、ポンド切り下げによる輸出力の増強であり、外国資本参入、さらには過去数十年でもっとも低い失業率を記録したのであった。この国民投票に先立ち、アメリカからはオバマ大統領がイギリスを訪れ、EU離脱はイギリスに悲劇的な帰結をもたらすとする「Project Fear」の主張を繰り返し続けたことは記憶に新しい。

このようにイギリス政府、アメリカ政府さらにはEU当局がこぞって推し進めていたBrexitへのネガティブ・キャンペーンにもかかわらず、イギリス市民がBrexitを選択した背景には、EU官僚及び加盟国政府によって推し進められてきた多国籍企業最優先の新自由主義型の政策が、各国の市民社会を根底から揺るがすまでに至っている現実があったのだ。イギリスにおいても貧困と格差の拡大、公共サービスの劣化に加えて、都市部と

多国籍企業体・金融界に特化した富の偏在が過度なまでに出現していたのである。その状況は、国民投票の投票行動に明白に現れた。イギリス全体では、離脱がほぼ52%、残留が48%であったのに対して、富の集中するロンドンでは残留派が60%であった。さらには、EU内の国際的なネットワークの中で行われる共同研究への参加が不可欠な大学人たちの都市であるケンブリッジやオックスフォードでは残留派が70%にまで達した。これに対して、国際化、グローバル化に見捨てられた人々は、一人一票という民主主義の手続きを通して、離脱の意志を明らかにしたのである。このように地域的、社会的な溝によって分断された深刻な社会状況は、数か月後にトランプ大統領を誕生させたアメリカ社会のそれであったことはいうまでもない。

EUという巨大な集金システム

EU・ユーロ体制を維持することは金融界と多国籍企業の利益にとって、不可欠な条件である。実はマクロン大統領誕生の背景には、このふたつの巨大業界が関わっているのである。ではなぜ、それほどにEUはこれらの業界にとって重要なのだろうか。

EUの基本には、公共の利益に反する信じられないくらい金融界にとって美味しい規則がある。しかもそれは、主権者である市民の利益と真っ向から対立するのである。というのも、それぞれの国が予算を立てるために借金をする必要が有る場合は、当該国の中央銀行から借りてはならず、民間の銀行からの借り入れに頼らなければならないというものである。これはヨーロッパの主要銀行にとっては、国の税収に裏打ちされた最も安全な稼ぎ口を保証してくれる願ってもない商機なのである。最も破産しにくい借り手は、まさに国である。しかし公共の利益に真っ向から対立するこのような規則が、なぜ導入されたのだろうか。そこには、EUという組織の本質的な在り方が関わっている。つまり、議会によるチェックを受けないEU官僚と多国籍企業のロビーストたちの密接な関係と利益誘導の構図があるのである。この市民のチェック機能があるかないかEUの企業体の利益を代弁するという構図が、マーストリヒト条約以来、各加盟国の主権の委譲が確実に進んできたことにより、一層深まってきたのである。このことは、それぞれ各国に存在した食品に関する遺伝子組み換え食品、やいくつもの農薬、添加物禁止規制が、

EUによって無効化されてきたことにも如実に表れている。EU官僚とロビーストたちによる利益誘導のメカニズムは、着実に巨大食品企業体の利益にそぐわない規制を外してきているのである。

EU委員会の通達GOPE（経済政策についてのガイドライン）

EUの現状を理解する上で欠かすことのできないことは、各国の主権がEUに移譲されてきたことにより、ギリシャ危機に見られたように、民主主義の危機ともしえる状態に立ち至っている現実に対する認識である。それを象徴的に示すものにEU委員会が毎年発表している経済政策に関するガイドライン（GOPE・Grandes Orientations de Politiques Economiques）がある。これは、全加盟国に対して個別的に求められる経済政策の詳細を提示するものであり、最終的には懲罰金を科す強制力をもつ通達である。具体的には、法人税の引き下げ、所得税の引き上げ、公共サービスの民営化と水準の引き下げ等である。これは、EU加盟国の国民国家としての制度を解体し、EU全体を一つの構造体にするためのものである。社会保障、公共教育、公共医療などを支えてきた国民国家の枠を

解体することによって、民間企業が参入できる市場を拡大するというものもある。基本的にはこの方針に沿って政策決定を行わなければならないために、通貨政策、経済政策の分野で、各国政府が独自の決定ができる範囲が20%もない状況にあるのである。このため、フランスでは、2007年に右派「人民運動連合」のサルコジ大統領が当選しようが、2012年に社会党オランド大統領が当選しようが、ほぼ同一のEU推進路線を突っ走ったのもこの通達に従うためのものだった。

ユーロの危機

このようにEUへの信頼が揺らぐなか、ユーロへの信頼性の低下も無視できない段階に入ってきている。そのことをTarget 2 balancesと呼ばれる各国の銀行間でのユーロのやり取りを示す指標に如実に見ることができる。ユーロ導入から暫くは、安定性を保っていた各国ユーロ間のバランスは、2008年のリーマン・ショックの時に大きく揺らいだあと、一旦は収まったかに見えながら、ここ数年で新たな不均衡が急激に膨らんでいることが分かる。大枠は、スペイン、イタリアなどの銀行からドイツの銀行への資本の移動が100兆円規模になっている

のである。これは、ドイツの国家予算が一般会計で50兆円規模であるのに照らすと、国家予算の2年分近い資金が流れ込んでいることになる。これは、まじかに迫っていると危惧されるユーロ崩壊を見越して、より安全な場所へ資金を移動しておこうとする動きなのである。ユーロが崩壊すると、フランスの新フランは現水準の10%切り下げになるとみられているが、イタリアでは切り下げ幅が15%、スペインとポルトガルでは20%に達するだろうと見積もられているからだ。これに対して、ドイツの新マルクは、25%ほどの切り上げが予想されている。つまり、ドイツに資金を移動しておくことで、イタリアが新リラを採用したときの水準に比して40%、スペインの新ペソに比して45%の差が生まれることになるのである。このようにユーロへの信頼が揺らいでいることの背景には、ユーロ圏各国の産業効率の根底的な不一致による経済不振の蓄積がある。フランスでは、フランスの産業効率に対してユーロの水準が10%ほど高すぎるために、輸出競争力が弱められてきた。反面、ドイツの競争力に比して15%ほど低い水準にあるために、ドイツの輸出競争力は対フランスでは25%の有利さを確保し続けてきたのである。そ

の結果、フランスの輸出は産業の空洞化が深刻化するなかで、失業率が上昇し続け、社会の不安定化が深まってきたのである。ここに国の将来の方向性を決定する大統領選挙と国民議会議員選挙の政治的な重要性が、今日ほど痛感されることはなかった状況があるのである。

ドイツのジレンマ

Target 2 Balancesに見られるユーロ圏内の資金移動のアンバランスは、ドイツに一極集中的に資金が集まっていることを示している。しかしこれは、必ずしもドイツにとって喜んではかりいられる事態ではないのである。なぜならば、外国から流入してくるユーロはドイツにとっては、ある種の不良債権のようなものでもあるからだ。ユーロが崩壊した段階では、スペインとイタリアの中央銀行が責任を持っていたはずの資金が、ドイツが責任主体となる新マルクに変化するのである。ドイツが責任を負う予定ではなかった資金に対して責任を負わされることを意味するのである。これは、ドイツの経済には大きな負担となるばかりか、ユーロの崩壊は、現在、ユーロ圏諸国間の競争力のアンバランスによってドイツが享受している有利な条件が消滅することを

意味してもいる。そうになると、一人勝ちの状態であった産業競争力は一挙に低下し、現在、その出生率の低さから来る労働力不足も労働力過多へ転じて、失業が社会問題化することになる。そこでは、最近、労働力不足を補うために受け入れた百数十万人規模の移民の存在は、経済的問題を越えて社会的、政治的な問題へと変容することになるのである。そのような事態を憂慮して、既にユーロからの離脱を求める専門家たちが存在している。しかし、現状の産業競争力がユーロのメカニズムに依存している以上、ユーロからの離脱が政治的な選択になることは考えにくい。ここにドイツの抱えるジレンマがあるのである。

メディアのメルトダウン

ともあれ、今回のフランスの大統領選で、政権担当政党の候補者が第一回投票で脱落したのは、このような今日のEUに見られる非社会的、非民主主義的な現実を背景にしたものだった。しかしこのようなEUの在り方に対するフランスの市民の判断は、実はイギリスがBrexitを決めた国民投票のはるか以前に既に示されていたのである。2005年に行われたヨーロッパ憲法条約の是非を問う国

民投票で、ほぼ55%が批准を拒否していたからだ。しかしフランス政府は、その市民の判断を無視して、議会による承認によって、2007年、リスボン条約として批准したのであった。

今回の大統領選においてヨーロッパ憲法条約への拒否を明らかにしていた民意を無視し、EU拡大路線を推し進めてきた共和党と社会党が、今回の大統領選において壊滅的な機能不全に陥ったのも当然といえる。共和党（かつての共和国連合、人民運動連合）のフランソワ・フィヨンと社会党のブノワ・アモンの両公認候補が、ともにEU推進路線を掲げ続けていたからである。しかし問題は、当選したエマニュエル・マクロンも同じく大幅なEU推進路線を掲げていたことである。そのEU推進派候補が当選した背景として見逃してはならないのが、新聞、雑誌、テレビのほとんどが、ほぼ10人ほどの資本家に買い占められ、ジャーナリズムとしての機能がメルトダウンしてしまっているフランスの状況である。そのことによって民意を反映するEU批判に対する徹底的なネガティヴ・キャンペーンが繰り広げられた。そこでは、金融・産業界とメディアの全面的な支援を受けていたマクロン候補のメディア戦は圧倒

的であった。公共の利益が大企業の利益によって侵食される状況を容認するため世論形成が、主要メディアによって導き出されたのである。かつてジャーナリストたちが株を持ち合って独立性を保っていた「ル・モンド」、「ヌーヴェルオブセルヴァトゥール」、「クリエ・アンテルナショナル」などの新聞雑誌は、IT通信企業のグザヴィエ・ニエルやイヴ・サンロランの共同経営者でもあったピエール・ベルジェなどによって買い取られた。そして「リベラシオン」、「エクスプレス」は、携帯・ケーブル系のパトリック・ドレイに、「パリジアン」や経済紙「レ・ゼコー」はルイ・ヴィトンのベルナル・アルノーに、さらに「ル・ポワン」はプランタン・FNAC系のフランソワ・ピノーなどの影響下に入り、各紙ともかつての面影は既がない。テレビ・ラジオも状況は同様である。

資本家によるメディアの買い取りは、新聞雑誌がユーロ導入以降の経済状況のなかで直面した業績不振を受けたものであったが、加えてEU市場を多国籍企業の狩場としての市場に作り上げていくための世論形成の手段として投資的価値が増大したことにより加速したのである。フランスでは、サルコジ政権とオランド

政権の下でメディアの買い占めが進んだのも、これらの政権がともにEU推進路線を推し進めたことと連動していたのだ。

ひとつのオルターナティブ

このような状況を踏まえたとき、ユーロ、EUさらにはNATOからの離脱を明確に公約として掲げた大統領候補フランソワ・アスリノ（「人民共和連合」Union Populaire Republicaine）が、メディアによるほとんど完璧なボイコットの対象となっていたことの異常さも理解できるのである。歴代政権の政策に最も対立する政策を掲げる彼の提言は、その意味で、今日のフランスとEUの状況を理解する上で極めて示唆に富むものといえるだろう。深刻化するEUの状況の背後に潜む或る大きな意志を物語っているといえるからだ。

ソビエト体制の末期にも比較される現在のEUの状況のなかで、フランスの主権と民主主義をEUから奪還しようとする新しい政治の顔ともいえるアスリノ候補の政策には、新自由主義型の政策からの転換を図る具体的な政策が見られる。

そのひとつは、有権者の意志を政治に反映させるための手立てとして、市民発案を法制化するというものである。これ

は、50万人の署名による要求があった場合、法律の廃止、政権担当者の罷免などを問う国民投票を行い、その判断には強制力を持たせるといえるものである。さらには、選挙において白票として表明される投票を有効票として認めるというものである。仮に白票の数がどの候補者の得票数よりも上回った場合、すべての立候補者への不信任投票として認められ、選挙は無効とされる。そして数か月後に新たに行われる選挙では、候補者を全員入れ替えて選挙が行われる。これによって現行の日本の小選挙区制に見られるような、少数派によって選ばれた候補者が多くの有権者の意志を無視し続けることを阻止することができることになる。また社会を内側から立て直すための政策として、2020年に予定されている伝統的な地方自治体の統廃合の白紙撤回があった。また過度な民営化による公共サービスの劣化を阻止するために、鉄道、郵便、水道、高速道路等の主要な産業の一部を国有化することも含まれている。

アスリノは、フランスがアフガニスタン、リビア、シリアなどでの国際法に反した戦争に駆り出されたことへの反省から、NATOからの離脱も主張している。そこには、ワルシャワ条約機構が存在し

ない現状においてNATOの存在理由はいなくなつたという認識がある。また、EUによってウクライナ状況を廻って一方的に決定されたロシアへの経済制裁を批判するとともに、トランプ政権によって唐突に行われたシリア爆撃を、国際法に違反する行為であり、イラク戦争の過ちを繰り返すものだとして強く糾弾している。

総選挙の行方と選挙制度

ユーロとEUの存在を前提とした今日のヨーロッパ統合が、フランスにおいて政治的、社会的な臨界点に差し掛かっていることは、大統領選に続いて6月に行われた国民議会選挙で、さらに顕著に浮かび上がってきた。その明らかな指標は、投票棄権者が初めて50%を越え、第2回投票に至っては、58%にも及んだことである。1848年、第二共和政によって始まった普通選挙（男性に限る）の一世紀半以上の歴史の中で、初めて過半数の有権者が棄権したのである。政治には強い関心を示すお国柄であったフランスでは、この間、概ね20〜25%の間を行き来していた棄権率が、ベルリンの壁が崩壊し、EUの成立を以て、確実に上昇してきたのである。既に前回2012年の総選挙で42%に達していた棄権率は、今回

さらに飛躍的に上昇したのである。投票することの無意味さ、あるいは現在までの政策への失望と反抗の意志が、このように棄権というかたちをとっているのである。それは左右両陣営の政権担当政党に向けられ、両党の公認候補者が、ともに大統領選の第一回投票で敗退した。

フランスの政治状況のもう一つの問題点は、このような高い棄権率に至る選挙制度の機能不全があることだ。それは、有権者の意志が、議会での議席数に反映されていないという点である。これは、小選挙区制を採用している国に特徴的に見られるものであり、得票率と議席配分率が大きくずれていることは、民主主義国家としての根幹に係わるものである。過半数の有権者が、国民議会選挙の候補者たちの承認を拒否しているなかで、有権者の18%が投票した新大統領の政党である「前進する共和国」の議席が、圧倒的多数を占める結果になったのである。投票有効総数に限定しても、30%の得票でこの圧倒的過半数が議席として配分されているからである。これが、有権者の公正な代表を議会に送り出す方法としてはたして妥当なのかは、多くの課題を孕んでいるといえる。

実は、日本でも小選挙区制の弊害は否

めない段階に来ている。ベルリンの壁崩壊以降の文脈のなか、社会党の解体を伴う政界再編で投票率が急激な低下を見せたばかりか、1994年の小選挙区制の導入はそれに拍車をかけたのだ。民主党による政権交代があらたな政治への期待を産み出し、一旦上昇した投票率は、その後52・6%まで急降下を見せ、今回のフランスの水準に近づいてきたことが分かる。これは、政権担当陣営の交代があっても基本的にはあまり変わらない政治が行われるという状況の反映といえるのである。EUに対する姿勢が社会党と共和党で、ほとんど同じになってしまったフランスの状況は、日本においては、TPPに対する民進党と自民党の姿勢の類似に見られるものだ。しかも、そこにおける得票率と議席配分率の不一致は、民主主義の基本である一人一票の価値が尊重されていない重大な状況も共通している。

ベルリンの壁崩壊以降の歴史

イギリスのEU離脱の決定やフランスの大統領選をめぐるこれら一連の動きは、ベルリンの壁崩壊を契機にヨーロッパに展開してきた状況が、深刻な状況にさしかかっていることを意味している。そして、今日の日本の状況は、やはりソビエ

ト崩壊後の情勢の中で展開してきたグローバル化と連動しながら、新自由主義的な経済と社会の変化の末の姿であるといえる。そこには格差の拡大と弱者の排除が今までにない勢いで進行している。また小選挙区制によって多様な意見が政治に反映されなくなったばかりか、市町村合併によって日本社会の基本的な生活の基盤が空洞化され、多くの公共サービスの民営化によって社会的、地域的格差が大きく拡大してきたのである。さらには国際協力の名の下に、国際法に違反する武力行使への加担を余儀なくされる方向へ動いている状況を忘れてはならない。

BrexitとFrenxitに見るヨーロッパの動きは、いま一度、ベルリンの壁崩壊以降の日本社会の歩みを見直すときが来たことを示唆するものである。

(2017年6月22日・公開フォーラム)

筆者略歴(おぎの ふみたか)

1953年生まれ。

著書『他者なき思想…ハイデガー問題と日本』(共著、藤原書店)、『パリの街角で…音声ペンで学ぶフランス語入門』(両風堂)など。訳書『世界の多様性』エマニュエル・トッド著(藤原書店)。

公開講演会記録

北風が嬉しい！環境担当書記官

—北京3年半の仕事と生活

環境省大臣官房環境影響評価課 課長補佐 井上直己



はじめに

毎日、報道に接しない日がないほど日本人が注目し、気にしている中国という国を、報道やウェブでは得られないような生の体験を通じて知りたい。私はそういう気持ちで中国語を学び、中国赴任を希望し、2013年7月より在中国日本大使館の環境担当書記官として任に当たる幸運に恵まれました。それ以来、2017年1月までの3年半を北京で過ごし、中国政府や駐在員の方々との協力や交流、数多くの地方訪問など、貴重な経験を得ることができました。

中国の環境問題は日中両国が共通して注目している分野であり、しかも「環境改善」という同じ方向を向いていますから、日中間の環境協力は意義深く、やりがい

に溢れていました。また、環境担当書記官が扱う分野は、大気、水、土壌、気候変動、資源循環、野生動植物保護、海洋ごみ、原子力安全と、非常に幅広く、カウンターパートとなる中国側の政府機関も環境保護部の他、発展改革委員会、林業局、海洋局、核安全局とさまざまで、それだけ仕事も刺激も数多く、多様でした。

私の赴任は尖閣諸島を巡る大規模反日デモが発生した2012年の翌年であり、日中関係が相当に冷え込んだ時期でしたが、その後、日中首脳会談を経て、関係が徐々に回復し、交流が活発になり始めたタイミングでの離任でした。環境協力が、そのような難しい時期においても途絶えることなく続いてきたことは、日中関係の発展を考える上で重要な手がかりを持つものかと思います。

本稿では紙幅の関係から、様々な環境問題の中でも、日本で関心の高い大気汚染について中心的に取り上げ、現状と改善傾向、中国政府の取り組み、日本政府による協力について紹介します。最後に、二次情報によらず、中国に来て直接触れ合い、感じる日中交流の重要性についても述べます。

私が滞在した3年半、中国に滞在する日本人たちが肌で感じる中国と、一時帰国した際に日本国内で感じる、多くの日本人がとらえる中国との間に、時を経る毎に大きな溝ができていく印象を持ちました。そうした溝が埋まり、多様な見方がなされることが重要と私は思い、そのために本稿が少しでも役に立てば幸いに思います。

なお、本稿は筆者個人の考えを述べた

ものであり、組織を代表するものではありません。

1. 中国における大気汚染の状況

北京滞在中は多くの日本人の方々に大気汚染による影響を心配していただきました。日本では、中国に関する報道がされる時には、北京の高層ビルがスモッグで白くかすんでいる様子が放映されることが多いので、中国ではどこも四六時中大気汚染が深刻だというイメージを強く持たれているようですが、実際、中国の大気汚染の実態がどのようなものか、簡単に説明したいと思います。

まず、私が住んでいた北京について。北京市全体における2016年度のPM_{2.5}の平均濃度は、毎立法メートル73マイクログラム(μg)でした。日本のPM_{2.5}の環境基準の一日平均値は同35 μg 、年平均値は同15 μg です。で、年平均環境基準値と比べれば5倍となり、かなり悪い数値だということが判ります。

その大気汚染の約3割は、北京周辺の河北省や天津市に集中する製鉄所や火力発電所などの重工業における、石炭燃焼などで発生した汚染物質が、北京市内に流入することによるものと言われています。この北京市と天津市、そして河北省

を合わせた地域・「京津冀」(ジンジンジー)は、中国最大級の大気汚染発生源です。

河北省や天津市から北京への「越境大気汚染」は、主に南側から流入しますから、南風が吹くと北京の空気が悪くなり、汚染源が少ない北方から風が吹くと空気が良くなるという特徴があります。この風の影響は非常に大きく、視界の悪い深刻な汚染日であっても、強い北風が吹き始めると1時間で青空が見え出すという現象を幾度となく見えました。そして、北京に住む日本人たちは、この北風が吹くのを日々待ち望んでいました。ちなみに、この汚染発生地域の南に位置する上海では、北風が吹くと空気が悪くなり、南風を歓迎しているようです。

大気汚染の大規模発生源である重工業地域は、京津冀以外にも、上海市周辺や広州市周辺にもありますが、2016年のPM_{2.5}平均濃度は、上海市は同45 μg 、広州市は同36 μg となっており、南方は北方と比べて大気汚染の程度が比較的小さいといえます。

これらの三大工業地域以外の地域では更に大気汚染のレベルは低くなり、特に沿岸地域は海風もあり、空気は比較的良好です。例えば、台湾の対岸に位置する厦門(アモイ、福建省)は、本年、世界

遺産に登録されたばかりのクロス島を持つ観光地ですが、同36 μg と低い値を記録しています。

また、汚染地域という印象が強い河北省の中でも、北京の西北部に位置する張家口市は、同34 μg と北京市中心部の2分の1以下です。

このように、中国国内でも各都市によって大気汚染の度合いは大きく異なるものであり、「中国」と一括りにすることは非常に困難です。

2. 中国における大気汚染の特徴と要因

北京の大気汚染は季節による変動が特徴的です。大気汚染の季節は毎年9月の終わり頃から始まります。その主な原因は、農作物の収穫の際に発生するトウモロコシの茎や稲わらなどの野焼きであり、広大な地域の無数の地点で発生する野焼きの煙が大規模な汚染源となり、北京に流入してくるのです。このため、各地域で野焼きは禁止されているのですが、実態はというと広大な農地に散乱する茎や稲わらを回収する労働コストが多々であり、代替手段もない中で、当局の監視をくぐって野焼きが横行しているようです。

次の節目は11月中旬で、この時期に、

北京を含む華北地域では集中暖房（中国語では「暖気」）が地域毎に一齐に始まり、その主な原料である石炭の燃焼によって、大気汚染物質が排出されるのです。この集中暖房はボイラーで熱した水を地域の各戸にパイプで供給し、その熱水管で暖をとるものであり、華北地域の庶民が厳しい冬を越すために不可欠なサービスといえますが、一方で冬の大気汚染源の代名詞にもなっています。

政府は石炭から天然ガスへの転換（「煤改気」）を図っており、北京市内など都市部では改善が進んでいます。実際、北京市中心部では黒い煙を吐く石炭ボイラーを見かけることはなくなりました。しかし天然ガス供給のためにはパイプライン整備が必要であり、目の届きにくい郊外まで改善が行き渡るまでには時間がかかりそうです。北京ではこの時期の深刻汚染日には焦げ臭い何ともいえない臭いが鼻をつくことがあります。これは北京市の郊外又は市外から流入したものです。

こうした排出源に加えて、北京オリンピックの時代に北京市内から市外に移転させられた無数の火力発電所や製鉄所といった重厚長大産業の工場において、季節を問わず石炭が燃やされ、大気汚染の

ベースを形成しているといえます。

季節による影響に戻りますと、冬には上昇気流が起きにくく、空気の対流が止まり、冷えた空気が滞留することにより、汚染物質の拡散が阻害されることも汚染が深刻化する原因の一つです。大使館には日本国旗が掲揚されていますが、旗がしょんぼりと下に垂れ下がっている様子を見ると、汚染がひどくなるサインであり、見ている私自身もしょんぼりとしてしまいました。一方、南に向けてはたたく時は、北から清浄な空気が入ってきているサインですから気分が昂揚したものです。

このように、野焼き、石炭集中暖房、空気が停滞する気象条件といった悪条件が重なるのが冬季であり、この時期には警報が発出されるなど汚染が深刻化しますが、一方で、春と夏は風が吹きやすい季節であり、青空が楽しめる日が比較的多いのです。実際2015年と16年においては、春から夏にかけて、過去最低の平均濃度を記録しました。

3. 生活をする上で大気汚染に如何に対処するか

北京で生活すると、大気汚染によって精神的な浮き沈みを経験することが多く、

それは多くの在留邦人、特に駐在員の家族に共通していたことかと思えます。私は各地の在留邦人に向けて大気汚染対策セミナーを開き、如何にして大気汚染に対処するか、お話をしてきました。その中では、空気が悪い日には、家の中にこもって扉や窓に目張りをして、空気清浄機を最大出力で回して、外出を控えること、どうしても外出をする際にはPM2.5対応のマスクをすること、そして北風が入り込んで空気がきれいになったら換気をして、子どもは外で遊ばせるように、と話してきました。

しかし気象条件などによっては1週間以上連続で汚染が深刻となることもあり、その場合にはその間ずっと屋内にこもらなければならず、特に育ち盛りのお子様には、走り回ることができないストレスがかかったと思います。

現地の日本人学校からは校舎内空気汚染対策について相談を受け、当地の様々なインターナショナルスクールの校舎内汚染対策を手がけていたコンサルタントを紹介するなどして、対策を一緒に考えました。その結果、多くの空気清浄機を導入し、良好な空気環境を実現することができました。長女が通う幼稚園では、同学校の体育館を借りて運動会を開きま

したが、そうした対策が講じられていたもので、安心して楽しむことができました。

大気汚染のひどい日には外出する際にマスクをするという習慣は、私の滞在中国人の間にも広がってきました。赴任した当時は汚染度合いが如何に深刻でも街頭のマスク着用率はざっと10%強でした（筆者が街頭で目算）が、2015年には深刻汚染時は半数以上がマスクをしていました。中国人の間でも意識が高まってきていることが判ります。

4. 中国の大気汚染は着実に改善している

多くの方のご関心は、中国の大気汚染はますます悪くなっているのか、良くなっているのか、という点だと思いますが、現実には良くなっている傾向にあります。PM_{2.5}の高濃度汚染で騒がれた2013年の秋には中国政府は「大気汚染防止行動計画（大気十条）」を公布し、2015年1月には環境保護法を25年ぶりに改正し、行政による規制権限の強化や罰則の引き上げなどを行いました。

そうした取り組みの成果もあり、2013年以降、PM_{2.5}濃度の平均値は、中国全土、京津冀地域、北京市内のいず

れにおいても毎年10%前後の減少が見られます。特に、京津冀では、2014年から2016年にかけて、前年比12%、17%、8%の減少を示しています。なお、北京市中心部に位置する米国大使館に設けられているモニタリングステーションの数値も同様に減少の傾向を示しています。

この改善傾向については、3つの要因が指摘されています。1つは政府による取締りが厳しくなり、多くの違法操業の工場が閉鎖に追い込まれたことなど、政策の効果が挙げられます。2つ目には、経済成長が減速し、いわゆる新常态（ニューノーマル）に移行していく中で、老朽石炭火力発電所や製鉄所などが淘汰されていること。そして3つ目には気象条件が挙げられます。年ごとの改善についていずれの寄与が大きいかを示すデータはありませんが、毎年改善している傾向にあるのは、在留邦人ももちろん、多くの中国国民にとって非常に喜ばしいことで、改善が加速することを願うばかりです。

5. 「APECブルー」の青さ

その改善を加速するためにどうすればよいか。そのための究極の政策は排出源を根こそぎ止めることですが、中国にお

いてはそうした大規模な排出停止が何度か実践され、私たちはその顕著な結果を目にしています。

北京で2014年に開催されたAPEC首脳級会合、同じく北京で翌年に催されたいわゆる「抗日戦争勝利70周年式典」、そして更に翌年に杭州にて開かれたG20首脳級会合にお

いて、青空を実現するための一連の強力な取締りが行われました。これら行事の期間中は、開催市の周辺省市を含む広範囲において、違法操業の取締りのみならず、汚染物質排出工場の操業停止の徹底、さらには開催市におけるナンバープレートの偶数・奇数による自動車走行規制等が実施されました。ちなみに、北



PM_{2.5}が472 µg/m³を記録した2014年10月25日と、風が吹いて青空を見せた翌日

京市においては平常時においても、平日には毎日2つの番号が指定され、ナンバーの末尾が該当する車両は市中心部を走行できないのですが、この規制が倍以上強化されたことになります。これに加えて行事の開催期間前後は休日とし、政府が市外への旅行を奨励したこともあり、自動車交通量は大幅に削減され、日頃頭痛の種となっていた慢性的な大渋滞が嘘のように無くなりました。

こうした規制により、行事の間中は鮮やかな青空とまぶしいほど白い雲（いわゆる「APERCブルー」等）が見られ、束の間の綺麗な空気に感嘆すると共に、こうした強力な政策が本当に実現してしまふことに驚きました。もちろん、これらの強力な措置は経済や生活への影響も小さくないため、恒常的な政策とすることは困難を伴うようですが、「やればできる」という自信が政府内に広まったのは、一つの成果だったといえるのかも知れません。

6. 中国政府による大気汚染対策

それでは皆が求める「青空の常態化」のため、平常時にはどのような対策がとられているのでしょうか。中国政府は2015年1月に大幅に強化された環境保護法等に基づき、環境保護部を中心とし

て取締りの体制を強化し、工場への査察に力を入れ、違法操業の工場主たちの検挙や差押えなどを行ってきました。環境保護部が発行する機関誌においても、検挙件数の伸びを示す記事や査察をしている様子を写す写真が誌面を飾ることが多く、取締り強化が同部の一丁目一番地であることを映し出しています。

違法排出した場合の罰金については、先の法改正で上限が撤廃され、日割計算でいくらかでも加算されることになり、億単位の莫大な罰金が課されるケースが相次いでいます。中国政府はこうした法改正を「牙の無い虎に鉄の牙が生えた」と表現して、取締りに全力を挙げています。

上述の通り、大気汚染のレベルは年を追う毎に確実に低下しており、その要因の1つにこうした取締りがあることは間違いないのですが、一方で昨年12月には深刻な汚染が数日続く「赤色警報」が発出されるなど、依然として厳しい状況です。大気汚染が深刻であることは社会不安にもつながりかねないため、中国政府は徹底した取締りを進めていくとしています。

7. 日中協力の取り組み

そうした状況から、私が環境保護部等

と面会した際には、かつて日本政府が公害を克服した経験を教えてほしい、特に違法排出を行う事業者に対してどのような規制を徹底したのか、法執行のあり方について教えてほしい、という話をよくいただきました。また同様に、日本の優れた環境技術を活用した環境協力も強く期待されています。

そうした中、日本の環境省の他、数多くの主体が環境協力や環境ビジネスに進んでいます。JICAやNEDO、JETRO等の日本政府機関や、地方公共団体、環境技術を扱うメーカーや金融機関、コンサルティング等の民間企業、大学や研究機関等、その主体は様々です。私は書記官として、これらの関係者による協力事業に少しでも関わらせていただいたのは貴重な経験となりました。

それらの協力の中でも、特に取り上げたいのが、「日中友好環境保全センター」を通じてJICA技術協力事業です。同センターは、中国政府機関の中でその名称に「日中友好」を冠した唯一の組織で、1988年、当時の竹下首相と李鵬総理の合意により、中国環境保護総局（現環境保護部）の下部機関として、JICAの無償資金協力により1996年に北京に設立されました。

それ以来、同センターを通じてJICAの技術協力が連綿と続き、多くの日本人専門家がセンター内に駐在して、調査研究、計測等手法開発、人材育成等の協力が行われてきた歴史があります。昨年5月にも新たな技術協力が始まり、環境省の職員が専門家として駐在して中国政府の職員や研究者等との協力に取り組んでいます。

折しも昨年は同センターの設立20周年にあたり、式典が開催されて丸川珠代環境大臣（当時）と陳吉寧環境保護部長（当時・現北京市長）も出席しました。また過去に活躍された日本人専門家の方々にも多くご参加いただき、日中の専門家が旧交を温める様子を目の当たりにする中で、日中環境協力の歴史の長さや先人が築いた協力の礎の厚みを実感しました。

日中間においては地方公共団体レベルでの協力も活発です。環境省は2014年より、既存の日中友好都市間などの良好な交流協力関係等を基礎にし、両都市間の大気汚染対策分野での交流協力を更に一歩進めていくことを目的として、環境保護部とともに地方公共団体レベルの協力プラットフォームを設ける日中都市間連携協力事業を開始しました。高度経済成長期に深刻な大気汚染を経験し、豊

富な経験を有する日本の地方自治体を中心とした関係機関の知見やノウハウを活用し、中国の主要都市において人材育成・能力構築などを実施していくものです。

ここからは、私自身が直接関わった在中国日本大使館による草の根・人間の安全保障無償資金協力事業（草の根事業）についても、筆者の思い入れの深い事業ですので、簡単に紹介したいと思います。

草の根事業は、中国の貧しい地域等において、現地の非営利のローカルNGOなどと協力しつつ、草の根レベルの住民に裨益する小規模な事業を支援するものです。筆者は、河南省の奥地の村に生物浄化装置（汲み上げた井戸水中の汚染物質を微生物によって分解・浄化するシンブルな構造）を導入する事業のために、現地のローカルNGOと仕事をしました。そのNGO代表は水質汚染の原因企業と戦う勇気を持ち、清潔とは言えない井戸



2014年、日中の環境 NGO の記念撮影

水を飲まざるを得ない貧困村において、井戸水の浄化に地道に誠実に取り組んできた方です。アジアのノーベル賞と言われるマグサイサイ賞（注：フィリピン人のマグサイサイ大統領を記念して創設）も受賞されました。

別の事業では、中国の台所の排水口に廃油が流されることによる水質汚染を避けるため、かつて日本でも赤潮などが深刻だった琵琶湖周辺で「石けん運動」に取り組みまれた経験を基に、廃油を回収して石けんに再生させる取り組みを日本の環境NGOが中国の環境NGOに伝えることができました。

この草の根事業を通じて、中国の様々な環境NGOと日本の環境NGOをつないでいったことは、日中間の様々なレベルでつながりを作るといって意欲深く、私自身、巨大な中国という国の中で、環境汚染に苦しむ人々や立ち向かう人々がいるということを直接知ることができました。14億人を擁する中国は様々な方が

いますが、環境活動に取り組むNGOの方々の瞳はとてもきれいだな、と私は実感しました。

8. 3年半で出会った様々な中国人

中国での3年半の生活を振り返ると、様々な経験をしたことが思い返されます。それらを一言で言い表すことは実に難しいのですが、あえて表現するならば、中国には実に様々な人がいる、という簡単な言葉につきますかと思いますが。日本の25倍の国土を擁し、何十もの民族で構成される14億人の人口を擁する中国では、経済面、社会面、そして文化面において非常に多様です。人々は言語から、性格、考え方などが実に様々であり、それらが形成する大きなダイナミズムが中国に生活する大きな刺激となりました。

どこの国にも良い人もいれば悪い人もいます。これは世界共通です。行列へ割り込む人がいれば、その割り込みを公然と非難してマナーを促す人もいました。田舎の特急の二等車両内で酔って大乱闘する乗客がいれば、それを体を張って必死に制止する車掌さんがいました。電車内で唾を吐く人もいれば(注…近年、北京ではほとんど見かけなくなりましたが、私は一度だけ目撃しました)、30代後半

の私にさえ席を譲る若者もいました。大使館前で怖い顔をして警備している武装警察も皆生身の人間であり、毎日の挨拶を通じて笑顔や片言の日本語などが返ってきました。反日感情が高揚した時期に乗車拒否をするタクシー運転手(私は一度も経験しませんでした)もいれば、「日中友好の証だ」と笑顔で言っただけで端数を割り引いてくれた運転手もいました。

日本では2012年の大規模な反日デモのイメージを強く持っている方も多いかと思いますが、私が2013年夏以降北京に滞在している間に、中国人の反日感情で不愉快になるようなことは北京ではほとんどなく、日本人だからといって相手が態度を悪くすることはありませんでした。一度、酔った客が私が日本人であることを知り、絡んで「説教」をし始めたことはありますが、それくらいです。

日本人が多く滞在し、情報も溢れる北京や上海などの都市部では反日感情は比較的低く、日本人に直接触れることがない地方には残っているようです。私が一度山西省の太原市を旅行した際には、タクシー運転手が私が日本人だと知り、あからさまな不快感とともに、「日本人だって!」と何度も聞き返しました。私は「そうだ、日本人だよ。日本人は嫌いか

い?」と聞き返すと、「…嫌いということはないけど…」と言いつつながらも歴史問題に言及し始めました。私の拙い中国語でしばらくやりとりをして判ったのは、彼は日本人に直接会ったことがなく、情報源が反日ドラマや反日的な報道のみであるために、そうした一面的な反感につながるのだということでした。

ですから、地方を訪れる際に初めて日本人に会ったという人がいると、私はチャンスだと思い、話しかけるようにしていました。そうした人々に、日本人とはどういう人なのかを知ってもらうことは、その地域の対日感情に良い影響があると思ったからです。厦門(アモイ)のタクシー運転手(河南省出身)と意気投合して話し込んだ後に、「正直日本人に良い感情を持っていなかったけど、日本人のことを見直したよ」と言われたのはこの上ない喜びでした。

そもそも私が中国に興味を持ち、中国語を学び始めた動機の一つは、日本でしきりに報道され、注目される「中国」というものを、色眼鏡を通さずに自分自身の感覚を通して知りたかったからでした。そしてそれを実践していく中で、それは同時に、相手にとっても、報道などを通して「日本」を直接感じてもらう重要

な機会となっているのだということを、今回の中国滞在で実感しました。両国間においてそうした交流や機会が多くもたらされることを願ってやみません。

中国で印象深かったことの1つに、電車やバスにおいて、お年寄りや妊婦、幼い子どもなどに席を譲る文化が根強いことがあります。その反応は非常に速く、私は3歳の娘を連れて乗車すると必ず瞬時に誰かが譲ってくれました。私の70歳の父母が訪中したときも、妊婦であった妻も、例外なく席を譲られました。ショックだったのは、妊娠7か月で帰国した妻と東京で電車に乗った際には30分間、誰一人として譲ってくれなかったことです。

日本では心遣いの文化を持ちつつも、読まなければならぬ「空気」が多すぎて、何か行動を起こすこと、発言することのハードルが高いのではないかという印象を持ちました。

両国は異なる点が多いからこそ、相互に学ぶことも多いのではないかと思います。

おわりに

本稿を通じて、中国での環境問題の深刻さとその対策や協力事業の動き、そして環境改善の動きつつある現状を少しでも

も理解していただけたならば幸いです。中国の環境問題は、大気、水、土壌、廃棄物、トキ等の希少生物保護など、無数の分野にまたがっており、長い協力の歴史の上に現在の協力が成り立っています。私が大使館での任務を全うすることができたのは、そうした協力の歴史を築き、また現在の協力を最前線で取り組んでおられる数多くの先輩方のご指導やご助言のおかげであり、この場を借りて皆様に深く御礼を申し上げます。



晴天時の北京市内（筆者撮影）

また、中国での様々な経験ができたのは、帯同した妻と娘（2〜4歳に滞在）の支えがあったおかげでもあります。彼女たちは北京滞在中で空気の面では心配をかけたものの、それを超える貴重な経験、様々な中国人や文化との出会いができたと言ってくれています。娘は今も健康そのものです。この赴任は家族にとっても、将来にわたって広い視野を持つための原体験となったと信じています。

これからも日本にとって引き続き重要であり続ける中国の環境問題について、陰に陽に微力ながらも貢献して参りたいと思います。

（2017年7月3日・公開フォーラム）

筆者略歴（いのうえ なおみ）

1977年米国アイオワ州生まれ。
2001年東京大学法学部卒業。2008年ケンブリッジ大学環境政策学修士卒業。2009年サセックス大学環境開発学修士卒業。2001年環境省に入省。

海を渡った「芥川賞」

鶴留エマ（会員）

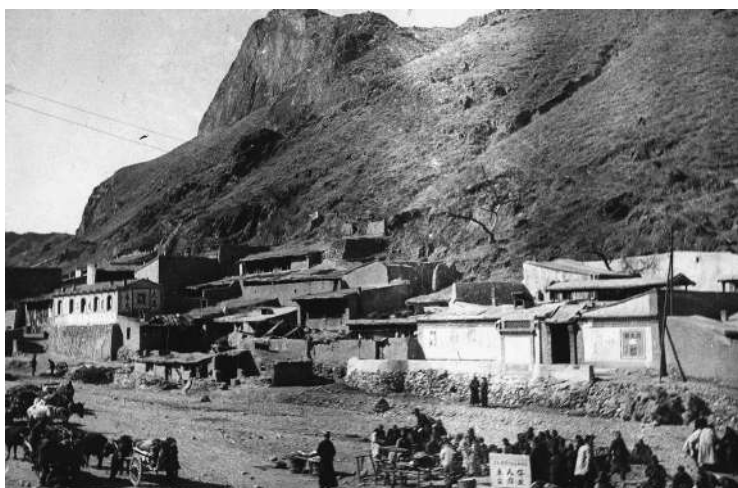


昭和十八年九月に第十七回芥川龍之介賞は北京を通り越えて北へ二百キロの蒙疆は塞外の地、張家口へやって来た。

張家口は昭和十二年八月末に東條兵団と板垣兵団が二方から周辺の地の激しい武力応戦と抵抗に出合いつつ到達し、山上で明日は張家口に入城と眼下の灯火の瞬く市街を眺め、予定の砲撃を躊躇して破壊するに忍びずと考え一日の停電もすることなく総ての施設が日本軍に接収された、と記録がある。日本の支配下になった。

シルクロードの出発点であり、モンゴル語で呼べば「カルガン」陸の港の意、モンゴル共和国（外モンゴル）国境に近接の要害の地で外万里長城を抱いて山嶺が郊外を取囲み、古今変わらず軍都である。

昭和十二年十月にモンゴル各地から支



張家口（カルガン）市郊外、手前に万里長城がある

配者の王達が百靈廟で第二次蒙古大会開催。

雲王（雲端旺楚克）は百靈廟近くのハルハ右翼旗の旗長（郡王）、いつも質素な木綿の衣服を身につけ、華美な服装の写真はないと伝わる民族指導者が主席。

徳王（德穆楚克棟魯普）副主席。蒙文、西藏文、中文、英語も理解し日文も蒙文と文法構成が同じなので文章の大意はわかる。射撃の達人、無論乗馬も。昭和十年に関東軍は徳王にスーパ六人乗り飛行機を操縦士、ガソリン付で贈呈。徳王は非常に喜んだ。当時、専用機を持っていたのは張作霖と蒋介石ぐらいであった。

関東軍は徳王の領地西ソニット辺りに飛行場とガソリン備蓄所の建設目的をも兼ねての一策であった。

二回に渡る訪日の折に天皇から白馬一頭が徳王に贈られた。徳王は張家口へ帰

国後しばらくすると、その白馬を蒙疆政府参事官、和佐蔵之介顧問にあげた。和佐氏は政府厩舎に自ら職員まかせにせず白馬の手入に毎日立ち寄った。末娘素美子さんの話である。

和佐顧問は中国語と乗馬に堪能で、その中国語は蒙疆随一と謳われて、徳王の信頼の厚く数々の場で通訳をする中国通であった。

その乗馬は敗戦時に北京に出張していた氏が下りの京包線が八路軍に破壊され不通となっていて張家口へ戻る手段がなくなっていた時に、馬で数日乗り継いで張家口へ帰ったと聞く。

その帰張が、すでに中共軍占拠下の張家口で馬を撃たれた氏は逮捕。数か月後に他の日本人や中国、蒙古人政府役員と清河河原の北白川宮永久王記念追悼碑（昭和十五年夏にこの地で飛行演習中の飛行機が墜落し観閲中の宮殿下や軍官民間の参列者死傷の大惨事を追悼し造られた。敗戦直後、中共軍に破壊された）の辺りで銃殺刑にされた。北京へ向かって日本人総帰国の為の汽車に乗った家族とは行き違いに。北京で氏を待つ家族に悲報は数年後に判明。

昭和十二年第二次蒙古大会で「モンゴルはモンゴル人で」と「高度自治」を求

めて独立国家、蒙古聯盟自治政府を成立し南京政府も承認した。

昭和九年頃から関東軍はモンゴル王侯や独立運動家を援助。軍事協力を具体化して来た影響は大きかった。

昭和十三年には高齡の雲王が徳王に後事を託して他界し徳王が政府主席となる。「徳王は日本軍と提携するにしても、日本軍が蒙古を必要とする真意を知悉して、蒙古が日本側から受ける援助に対しては堂々と要求していた」と元蒙古政府総務庁総務科長中島万蔵が書いている。

昭和十二年八月二十七日に張家口に無血入城した日本軍を後盾とした、十月に成立した蒙古聯盟政府は長年の中国支配から「高度自治」を勝ち取ったがその政権は主席、徳王、各職務長は全てモンゴル人が配された。多くの実務は日本人が行った。通貨は蒙疆銀行発行の蒙銀券、兌換は金・紙幣本位。金の裏付があったので北支一の信用があり敗戦後もしばらく北京で流通したと聞く。通信、電力、鉄道、医療、教育等々都市のインフラ総てを既存活用、新設と二年程で整備した。

昭和十四年十一月蒙古聯合自治政府（通称蒙疆政府）とした。

海拔九百米長城を抱く低い山脈はゴツゴツとした岩山でろくに灌木も生えない禿山なのに五月に入るとその山肌が若草色のビロードのように見える。秋の蒼天は例えようもなく高い空が美しい。名産の落花生が子どもの口に入るのもこの頃。冬は南口の柿を二重窓外枠に置き柿のシャベットを暖い室内でお匙でそっと口に運ぶ。戸外は零下三十度前後の世界。

雨や雪の日は少なく、偶に降ると大雨が昭和十四年に降り六月前後であったか。京包線が二か月も不通であった。十八年には市内の家々が流され行方不明の人数多く、日本人国民学校の生徒も一人見つけられなかった。山裾の所々に土石流の形の川状の流水のない場所が見られる。大雨になると濁流と化す。

珍しく大雪で我家の道路からの二十段上る階段が雪で埋れ子どもは背丈程と祖母が話している、吹溜りで一米も積った。集団登校はいつもだが黄塵の日は皆で手を繋いで固まって十分足らず歩くと第一国民学校に着く。帰校時はそれぞれで一人で帰る時もあり、夏の日であったか墓地の中の道で糞転しに出会う。しゃがんで見る糞転しは一センチ前後の黒っぽい球形の虫で馬糞等丸めて転がして体より大きな糞の球に仕上げお家にか何処

かへ運ぶ。少しずつ行きたい方へ全身で押す。

墓地の原っぱは社宅の子どもの遊び場で、学校への近道でもあった。社宅団地に冬はスケート場の広場、テニスコート、スベリ台、ブランコ等あるのに何故か。墓地は横穴式で横穴を数米下りると奥の方に木棺が置かれているのが入口から少し下がると見えた。何か所あったか覚えていないが二十か所もあったろうか。

ドッチボールをしていて球が転がり落ちると男の子が拾いに行つて、お棺があるよ、と話した。道の片側は通学道路に面し一方は原野で数百米離れた場所に明代からの狼煙台が崩れかけてあった。狼煙台の下部には洞穴が数か所穿たれて浮浪者が住みついている。

ある日、集団登校で学校へ向かつて蒙疆新聞社横の道にさしかかると先を歩いていた男の子達が立ち止ってしまった。女の子達が追い付くと地面に布靴を履いた足の骨が軋がっていた。人間の脛が骨だけになっていた。上級生達が狼煙台の浮浪者が病気だかで死んで、狼か野良犬が啜えだしたかと云っていた。

その日の学校の帰り道は同級生の悠紀子ちゃんと二人で怖かったが遠くから恐る恐る見通すと道にそれらしきものは見

当たらなかったたので胸を撫でおろして近道を帰った。大人達の誰かが片付けたのかも。昭和十八年だった。

昭和十四年四月に父、小池秋羊が張家口の電力会社、蒙疆電業株式会社に転職し勤務が始り、後から母や祖母、弟数えの二歳、私は四歳で十一月に冬に入った張家口に渡った。

私達家族は神戸港から船で天津の塘沽港に四日半かけて到着した。船内は二等船室で作り付けのベッドが数床あり、お風呂がついていてバスタブの水面が波の揺れと同じくチャプチャプと動いているのが不思議に思えた。浴室には丸窓がついていて外を覗いたら海面が甲板とは異なつて近くに見えて吃驚した。船室内は洋風の設いで家具や壁はクリーム色だったと母は話している。

島田や着物姿の女性の団体が近くの船室で弟と私を甲板に連れて行ったり、遊んで貰った。後日、初めての汽船の旅と最終引揚げの昭和十九年十月の関釜連絡船釜山―下関の一昼夜の船室に畳を敷いて仕切もなく多勢の人が座ったり、寝そべっている状態、浮袋を身体の前後に付けられ身動きもままならない何か臭い重い空気の中で過した船旅を思い出して母に聞くとあの女の人は芸者さんよ、と

のこと。

日本の進出に従つて天津・北京・張家口も女給、芸者、花柳界が出現した。なかでも張家口は駐蒙軍の数多く、政府や国策会社も大規模で接待の需要が多くて花柳界が栄え、芸者の格もレベルも北京より高かったと云う。

船が塘沽に着くと埠頭から出迎えるの叔母に抱かれて二頭立の白馬の引く馬車に乗った。

天津・北京と汽車に乗り北京で頤和園で遊んだ。雄大な建造物の離宮や人工湖、接岸しているような石の船に大人達は感心した。私は弟が暑がつて脱いだ母の手編みの白い毛糸のコートが手許にないと母が気付き大急ぎで来た道を引返したが、最早や誰かが持去ってなかった所が萬寿山としか覚えていなかった。

北京から八達嶺を越すと汽車は台地のモンゴル高原に入り、当時は七時間かかって張家口へ到着する。

父の仕事先「蒙疆電業株式会社」通称電業の本社ビルは張家口駅前交差点の角にあり、グレーの一部三階、地下二階、角の正面玄関は丸くカーブした半円形の階段を五段昇ると、ホールに受付があり、向つて右手に地下階への階段がある。エレベーターがあったかどうか覚えていな

い。

地下一階に理髪店とレストラン「銀杏荘」があった。赤いソファのボックス席がカーテンで仕切られて、私には別世界の雰囲気にも思えたし、オムレツ仕立のチキンライスが大好きで、家族で行くと嬉しかった。

祖母に連れられて理髪店へ来た後は怡安街の日本蕎麦屋の天婦羅蕎麦と決っていた。

電業は創立、昭和十二年十月。八月に東條兵団が無血入城してからも多くの都市の基幹産業や施設が日中戦乱の最中でも可動していた。引続いて日本軍に接收され一日の空白も起きず張家口市内は生き続けていた。

電業も例外ではなく接收直後、満洲電電から派遣されていた関係者の並々ならぬ仮運営と軍の手助けで、唯一の小発電所を吸収合併を行い蒙疆電業株式会社は設立発足した。

大同・フフホト・包頭と支社・支店も作り蒙疆一円に火力電力の供給が始まる。

しかし、辺地、奥地の敷設は八路軍やゲリラに襲われて困難を極める所もあり、白系ロシア人の銃装備の人達を備って同道したり、軍の守備のもとに作業の地区もあった。敗戦までも日本軍の守備範囲

は中国では点と線であった。

笑い話として伝わっている電業のアイロン。会社で電気アイロンの販売を始めた。珍しい家電の走りであった。買い求めた人達から会社に苦情が次々と。何と電圧が低過ぎてアイロンが熱くならなかったとか。

電業のトップはモンゴル人李芳洲初代理事長、日本人益進副理事長、古泉光男副理事長。二代目で敗戦、八年間の蒙電の存在年数である。

蒙疆政権そのものが八年間で様々の事柄を急展開して都市型の基礎を整備。病院、学校、鉄道、通信、敗戦で中断するも近年そのインフラ化が中国で評価を得て大学間で今後の国造りの参考にと研究され始められた。

張家口に住み始めて三、四年に達すると、父や家族もモンゴルの地であっても漢人の中国の街の中の生活を慣れ親しみ暮し始めた。しかし日・中間の乳幼児の死亡率が高かった。

社宅は会社から十五分位歩く高台に作られ、三米高さの練瓦塀に囲まれ通用門は二か所、門番小屋が付き、白髭が長く長身瘦せぎすのお爺さんが門番。小屋は泥壁で四坪ほど一坪ぐらいの高床があり木箱と上に薄い寝具か。泥壁に見事な拵

えの青龍刀が掛けてあって鞘が本当に青くこの小屋に不似合に思えた。

冬は小屋の中で達磨ストーブの石炭が赤々と燃え、夏は蓬を長く編んで蚊やりとしてあり、集団登校の集合場所でもあった。お爺さんが喋ったことは一度も聞いていないが三国志の名将はかくもあるかとその風格を思い出す。

社宅は公館（副理事長宅）一戸建ての科長用が五戸、二戸一棟の係長用五棟、社員用四戸建が九棟だった。男子寮、女子寮があった。

私の家は二戸一棟の係長用で、畳の三部屋、二部屋前を通して二米巾の板張床のサンルームと玄關ホールが広く一部屋になっていた。

集中式スチーム暖房、タイル張りの風呂、水洗トイレ、台所、ガスはなくて炊きは電気コンロだった。二重のガラス窓は観音開きの外見は洋風の家だった。

この家には訪問客や泊り客が多かった。蒙疆の各地から来張、日本から来た、お酒を飲みに等のお客様で、父は全くと酒が飲めない体質なのに酒席が好きで、母は日本酒を何時も用意していた。

夜が遅く八時半頃に暗くなる張家口では夕飯を済せ、お風呂にも入った後でも夏の夕方に又、子ども達や親達も戸外へ

出て遊ぶ。そんな時にアツ島玉砕が子ども達で話題になった。私には玉砕の意味が未だ判らなくて家に帰ってから母に尋ねた。南の島で戦争があったと日本の兵隊さんが全部死んじゃったのと聞き、大変なよくない事が日本に起きたと思った。

朝は祖母に起されて未だ眠いのお手洗に連れられ用を済せながら聞くともなく耳に届くのは街中が起き出し動き始める気配の物音。鶏の刻を告げる鳴声。甲高い太々の叫び声、物売りの掛け声、荷車のガラガラと、犬が鳴く。高台の我家に街の目覚めが昇ってくる。聞きながら顔を洗う。私も目覚めてくる。

今でもこの情景に憶いが辿り着くと直ちに張家口へ飛んで行きたくなる。

一九八八年に敗戦後始めて張家口に行き、その後二十回は訪張した。が今でも張家口と聞くと憶いが、血が騒ぎだし冷静でいられない。

昭和十六年、張家口に住み馴染み始め、仕事も安定した日本人の間で文学に興味を持つ人の交流が生れ「蒙疆文芸懇話会」が発足。二十人が集まった。皆々が定職を持ち仕事の傍らの交友から始る。維持会費一人拾円（蒙銀券と日本円は同格）を集め同人誌「蒙疆文學」月刊を発足する事に。



昭和十七年六月、「蒙疆文學」創刊六月号発行。編集兼発行人 赤塚欣二、発行所 蒙疆文芸懇話会（張家口興亜大街和光荘二〇號蒙疆電業社宅赤塚方）、定価五拾銭。

雑誌の発行等の時期から、懇話会の知名度が上がってか、政府や、民間等の劇研や同好会が合体して懇話会演劇部とし加わり、放送局の要望でラジオドラマ、山本有三作「同志の人々」三十分の放送で、父も出演し、家族はラジオの前で聴き入った。二か月に一夜のゴールデンタイムが提供されラジオドラマの生放送も試みた。

昭和十七年は蒙疆政府成立三周年に当たり記念行事で演劇部は張家口劇場で、菊池寛作「父帰る」を上演し娯楽の少い日本人の間で歓迎された。

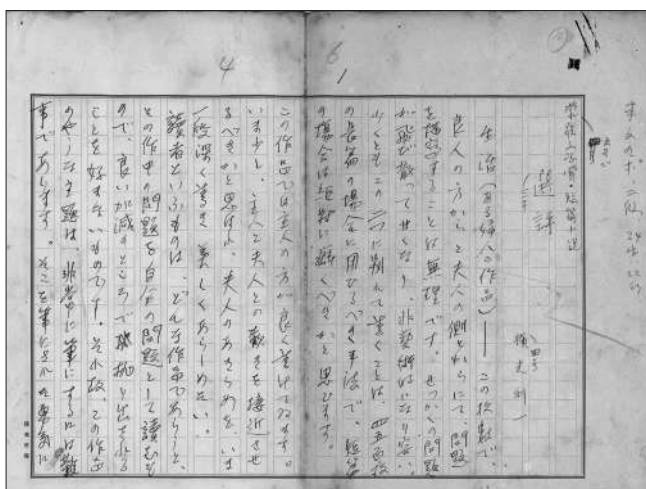
蒙疆短歌会、美術協会も合併し、蒙疆政府下の文化政策の一端を担い、政府からの補助金も出て、同人雑誌とは云えない存在になる。

「蒙疆文學」記念事業として「蒙疆文學賞」を設定、作品公募、小説審査員は、川端康成、横光利一、上泉秀信、北原白秋、前田鉄之助、三好達治の六氏に依頼した。小説入賞各一篇、蒙疆政府最高顧問賞及び副賞金一千円、佳作各二篇賞金百円、詩入選一篇、蒙疆新聞社賞及副賞金百円、佳作各二篇賞金各五十円。

この文学賞審査員依頼後の川端康成の手紙と領収書、横光利一の選考作品批評の原稿のみが二人の作家の自筆で現存し、川端の封筒の宛名は小池秋羊で、今は私の手許に有る。

父が電業へ転職する前は、都新聞社に勤務、上海事変の時に特派員として上海へ派遣され初渡航し中国に魅了され、中国で暮らしてみたくなり、知人に張家口の蒙疆電業株式会社の総務の仕事を勧誘されて妻子や老母も連れて来てしまった。記者としての仕事で当時の都新聞が力を入れていた文芸部も担当したらしく、大人気の流行作家とも知遇を得ていたのかも。

知名度の高い作家達を「蒙疆文學」の

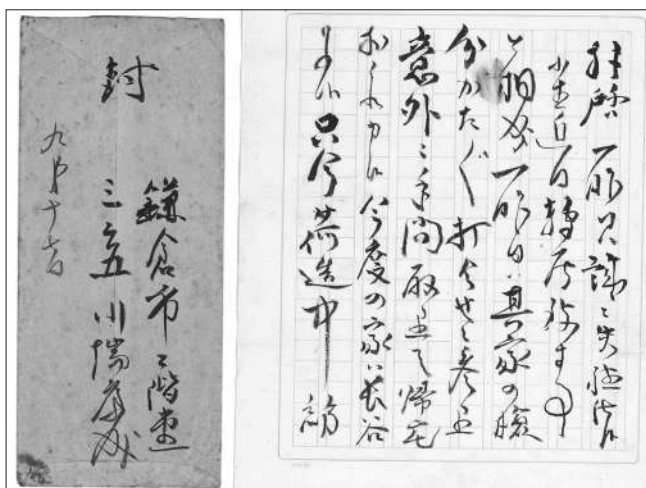


横光利一の手書き原稿

懸賞公募作品の審査員に依頼できたことは、効果が大きかった。まず作家達に蒙疆の地に理解が深まり、広いモンゴルにモンゴル国を作る。その手助にのめり込んでいる日本人達。本当に人としての夢や理想の実現を仕事として。蒙疆で働いていた多数の大人達。

『その出発点や切っ掛けが日本の侵略戦争であったから何をしても許しは得られないのに』

外地で暮しをたて働き、希望と目的意



川端康成からの手紙

識を持って文学を志す人を知り、時流にも合せた。

この懸賞小説に入選したのが石塚喜久三作「纏足の頃」、詩の審査員の北原白秋は審査後間もなく他界。懇話会の同人達は悲しみの内にも感謝を捧げた。

昭和十七年十月に、中国人、モンゴル人計二十五名が文芸懇話会を開催し、華文「蒙疆文学」誌を十二月号から発刊決定。

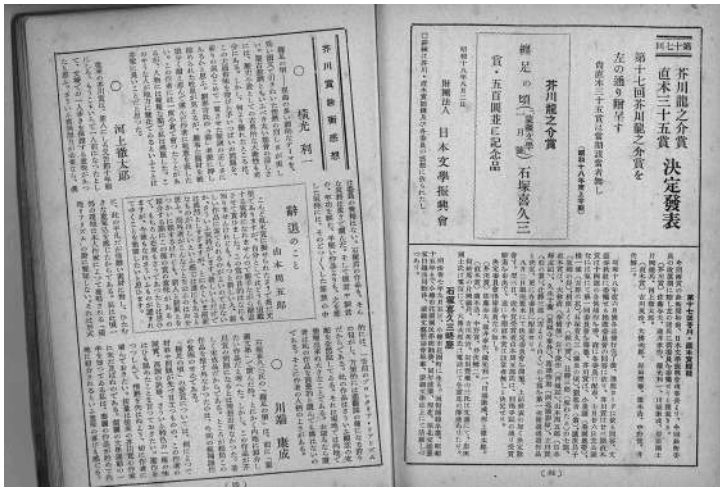
十一月五日を中心に「大東亜文学者大

会」を日本国が開催、日華蒙の代表が出席するようにと興亜院（政府外交部）から連絡があり、急遽、懇話会から三名、小池秋羊、和正華、恭佈札布が出席、東京の日比谷公会堂で開催、宿舎は帝国ホテル、出席者一同、挨拶の言葉を自国語で話した。モンゴル語の通訳はいなくて、父がモンゴル語を知らないのに仕方なくそれらしく伝えて、申訳なくて冷汗をかきながらその場を凌いだ。

その会場で小説、詩の審査をお願いした作家達に会って次回の芥川賞への蒙疆懇話会同人の作品の推挙、後押をお願いした、と伝わっている。時局柄もあって張家口にも可能性はなきにしもあらずとの思いもあった。

昭和十八年に入ると雑誌発行にかかわっていた同人達に、転勤や病氣、出征と変化が増して、本業の傍らの悲しさ、編集も難しくなってきた。仕方なく休刊も多くなった。

昭和十八年八月、芥川賞第十七回受賞者 石塚喜久三「蒙疆文学」の懸賞応募入選作「纏足の頃」が受賞作と決定。本国はもとより建国のはやかった満洲国へ行かず、中国で一番文化の発達した美しい北京を飛び越して、海を渡ってモンゴルの地へ来た芥川賞。掲載誌を作り、文



「文藝春秋」掲載記事

学仲間が寄り添っての蒙疆文芸懇話会の
 同人達の感慨も喜びもひとしお。本土か
 ら遙かなる張家口へ渡ってきた。新しい
 モンゴルの独立した邦造りを目ざして祖
 国日本を離れている人々の所へ。賞金五
 百円ならびに記念品。国策にそい、時流
 に乗った受賞決定とも云われたが人々の
 関心は集った。

昭和十八年八月に第二回大東亜文学者

決戦大会に張家口文芸懇話会より代表五
 名が東京へ、日文部幹事、赤塚欣二、石
 塚喜久三、青木啓、華文部幹事、王承琰、
 蒙古人代表包崇新、以上日程を終えて帰
 還するのは九月中旬なるを以って十一月
 号に当誌は大東亜文学者特集号を予定し
 ている。「蒙疆文學」誌上で予告し同人
 達の喜びは頂点を極めた。

だがこの期に赤塚欣二（電業）が宣化
 へ転勤後まもなく応召、青木啓（華北鉄
 道）は新京へ転勤、カットや挿絵を画く
 高玉輝雄（蒙疆新聞社）は婚約直後、時
 局柄早くに式をと結婚準備も万端整って
 いたが召集令状が届き、周囲の勧めと女
 性のたつての願いもあって、婚約解消を
 申出るも果せず、蒙疆神社で挙式十日余
 りで出征、フィリピンで戦死された。

新妻の育子さんは七十歳まで高玉育子
 で通され、八重嶋育子と旧姓に戻られ九
 十六歳までも独り身で生抜かれた。私の
 祖母と母は折々高玉夫妻を思い出しては
 涙を拭っていた。

高玉さんが我家に来られると弟が纏わ
 りついて離れなく、挿絵の打合せも儘な
 らず、大好きな高玉さん！なので、父は
 母を呼んで弟を連れ出すことも度々の優
 しいお兄さんだった。

昭和十八年十二月号編集後記には加え

て南春夫も発疹チフスの疑いで倒れ、十
 一月号は休刊の止むなきになった。
 それぞれの職場を持ち乍らのこういう
 仕事にとって、こんな風な浮き沈みは当
 たり前のことながら一度に來たので堪ら
 なかった。しかしバトンは決して離さず
 走り続ける覚悟である。

新年号は今後、落合、森江、小山内、
 小池の四人の編集陣で持つて行く。会も
 明年は「公法人」の性格が賦與され、拡
 大改組され、本誌もそれにつれて一段と
 内容が充実されるはずである。前途に豪
 も杞憂なきを断言したい。
 読者諸氏の多幸の迎年を祈る、と書か
 れた。

「公法人」の性格が賦與されとあるは、
 蒙疆政府が文芸懇話会の組織を利用し弘
 報、文化活動に公的資金、法人組織化を
 補助して張家口での文化方面を育て充実
 を計画した。

張家口の日本人社会は、駐蒙軍、蒙疆
 政府、領事館、居留民団（民間組織）で
 成立していたが、第二次世界大戦下にあつ
 ても、市内は治安がよく、時流に沿って
 いれば全く自由に活動することができて
 物資も豊富に回っていた。

蒙古聯合自治政府が昭和十四年に成立
 後の政府の運営資金はその多くを芥子を

栽培し、阿片に精製、商品化し上海の阿片市場で売り捌く仕事は駐蒙軍が手掛け、政府資金に、純金を購入し蒙疆銀行発券の通貨の裏付になった。

阿片での資金作りは日本国近衛総理大臣、岸信介商工大臣の認可で行われたと久米宏のルポルタージュ番組でその認可書が映像に映し出された。満洲国も同様であった。

平成二十年八月のNHKスペシャルで放映された「調査報告 日本軍と阿片」では板垣征四郎元陸軍大臣と東條英機元総理大臣の兩人が東京裁判で阿片を中国に蔓延させたことが起訴事実の一つとされた。兩人は昭和十八年に張家口を攻め落とした兵団長だった。

昭和十九年二月中旬に父に赤紙が来て応召して行った。二月始めに眞紀子を出産し母は未だ産褥にあり、祖母と一年生を目前にした海児が張家口駅頭へ父を見送りに。社員や知人、友人の見送りの人々で父の側まで行きつくのも大変だったと帰宅した祖母たみは話していた。

私も見送りに行きたかったのに母が登校するようにと仕方なく学校へ行った。教室に入ると久保田フジエ先生が待っていてくださった。先生は何も仰しやらずに黙って私の頭を撫でておられる。思わ

ず先生のお顔を見上げるとお目が赤くて涙が私の顔に落ちた。

母が私を学校に送り出したのは父との別れに私が大泣きする心配があったのかと今思う。

二年生になっていなかった私を先生は案じられてか。我家によく遊びにいらした久保田先生、お風呂に入って帰られたり。遅くなって北京からお産で実家へ戻っていた小波叔母と二人で先生のお家近くまで送ったことも。

「蒙疆文學」は父の応召で、その後の雑誌も我家にはなく、敗戦までの十八か月に何時出版できなくなったのか、私には調べようもない。

留守家族になった我家一家に会社は帰国を勧めてきた。父の友人達が時に留守宅見舞いに来て下さり、その一人に母が夫は同じ地続きのこの地で戦っているのに帰国はしたくないと嘆くと丁度良い。是非帰国なさい。この戦は日本が負けます。その時にこの小さな子達でどうします。負けなければ里返りしてきたと思います。張家口に戻ればいいでしょう。日本で今は敵国と敗戦後の天皇の処遇を交渉中です。とその右翼の友人に教えられ、直ちに帰国を決意して、昭和十九年九月三十日に張家口を後にした。

晴れ渡った張家口の秋空、東大平山の山波もくっきり朝、社長公館で最後の夜を過し、社長の車で駅へ。父は応召前には社長秘書を勤めていたが、自由に何でも好きなようにさせてもらえ、人柄を尊敬し仕事に励んだ。

父の蔵書を友人達が我家へ数日通われて、会社に預ける本、日本へ送る本を仕分け、家具も一部預けた。母も帰国は決めても戦いに敗けると本気で考えただけでもなかったか。昭和二十一年四月に帰国した父が半分以上の本を張家口に置いて帰国したと知って二か月も母に最小限にしか口をきかなかったと母は苦笑していた。

芥川賞第七十七回受賞、池田満寿夫は敗戦時一九四五年張家口第一国民学校六年生で学齢前から住んでいた張家口に縁りの人である。

筆者略歴（つるどめ えま）

張家口市に五年間幼少時を暮らす。東京女学館中学校、戸山高校卒。張家口倶楽部会員。



外国籍家政婦解禁か

編・訳 上松玲子

先日、中国は北京、上海、厦門など五都市で、フィリピン人メイドの就業を解禁する用意があるとフィリピンで報道された。

現在広東省では、香港、マカオ、台湾および外国人のエグゼクティブのみ一定の条件で外国籍の家政婦を雇うことが許されている。しかし、広州の家政婦紹介所のほとんどが大手も含めフィリピン、インドネシア、ミャンマーなどの外国籍家政婦の紹介をサービス項目に含めている。

つまり、ほとんどが旅行ビザで入国した者たちで、百%不法就労だそうだ。

フィリピン人の給与が最も高く、住込みで月5千〜6千5百元、ミャンマーやインドネシア人は4千〜5千5百元、それに最初に仲介費用がかかり、外国人メイドを雇うには1年で6万〜8万が必要だという。

広州の外国人メイドではフィリピン籍が多いが、この1、2年でミャンマー籍が増えた。休暇を取らないし、友達と会う時間もとらない。

彼女たちが突然いなくならないようにパスポートは雇い主が預かり保管する。雇う側には雇うリスクが存在する。当局に見つかれば5千から8千円の罰金だ。法律的には責任はない。2013年7月1日に実施された『中華人民共和国出境入境管理法』によれば、不法就労の外国人は5千から2万の罰金、雇用主は5千から5万の罰金とある。闇市場の背景にはニーズがある。広州市の実業家はフィリピン

ンメイドを望む。理由は英語ができること、心根が良いことだ。技能と服従度が高く、車の運転、マナー、態度もよく専門教育も受け、経験もあり、子どもを預けても安心できるし、子どもの英語が上手になると評価される。彼女らは3か月に一度香港に出てビザ更新するのだが、管理法施行後は取締りが厳しくなり、観光ビザの更新は難しくなった。報道では解禁後は月給1万3千円というが、これは現実的でないという意見が多い。

『羊城晚報』2017年8月2日

豊かな老後のはずか

58歳の高さんは老後を豊かに過ごすつもりが、北京の自宅を安く転売されてしまい、不動産売買の無効を裁判所に申し立てた。2015年から同様の目に遭った高齢者が数十人もいる。ある者は不動産を失い、ある者は巨額の借金を背負った。

高さんの家は北京朝陽区金蟬北里にある、2部屋80平米の家だ。去年の4月友達から「以房

養老」(房は家：訳者註)プロジェクトの一つという資産運用法を紹介された。12か月を限度として不動産価値の3%ずつを運用利息として受け取れるという。リスクもなく、多くの人が利用しているといわれ、加入を決めた。昨年4月貸主の王、仲介者の広、委託者の龍に連れられ公証所で金銭借用証書と委託書などにサインし、不動産交易所に行って権利証と身分証を渡し、不動産担保手続きを行った。

最初、高さんの銀行口座に220万人民币元が振り込まれたが、すぐに投資資金として引き落とされた。2か月後、高さんの銀行口座に13万円が振り込まれた後、連絡が途絶えた。友達に相談すると、投資が不調らしくもうすぐ元本が戻るという話だったが、結局10月、不動産は人手に渡り、退居と借金の利息の返済を迫られることになった。

北京老年維権サービスの賈弁護士は、現在21人から同様の訴訟の相談を受けているという。高齢者たちはリバーシモゲー

の契約をしたと思ひ込み、よく読みもしないで書類にサインをしてしまうのだ。

高さんの代理の胡弁護士は、頻繁な資金のやりとりの記録から詐欺だと断じた。出廷した龍は高さんが至急の資金を必要としていると紹介され、間に入り仲介手数料をもらったが、結局借金が返せない高さんから不動産売却を委託されただけで、その過程で高さんと連絡をとっていたと反論。龍は委託書を元に280万円という低価格で不動産を売ったのだが、代金は高さんのところに入っていないし、買主の代理人は市場価格で買ったと主張している。

北京市司法局は市の司法局と公証協会が調査に乗り出したことを表明した。また、金銭貸借契約に強制執行の効力を付与する公証と、借主が担保に関して委託する公証を同時に行うことを即日停止、強制執行効力と不動産委託に関わる公証に関しては、公証書を双方に送ること、当事者が60歳以上の場合は成人

した子どもが付き添うこと、公証手続きの過程を録画してコピーを残すことなどを義務付ける措置を行った。

『北京晩報』2017年8月8日

中国一入りにくい大学

開放時間を過ぎても清華大学の西門前には多くの旅行者が集まっている。猛暑の西門前では4、5名の警備員が警備にあたり、入ろうとする人や自転車、バイクを制止している。

河南省から来た男性は警備員が不正をしていると毒づきながら去って行く。警備員は拡声器で見学人数が制限を越えたと告げる。開門の2時間前には来て並んだほうがいいらしい。

入れないと知った人たちは、なんとか場所を見つけて清華大学という文字と記念写真を撮ろうとする。広東省から来た一家は、あきらめきれない様子。父親は「2千キロも向こうから来たのに」と憤慨。母親には「記者さんが口添えしてくれれば、もしや」と迫られた。

4時を過ぎて、また一団がやってきたが門の守りは固い。周辺自治会の警備員も周りを取り巻く。交通事故を警戒して2年前に車道と歩道の間に鉄柵が設けられ、横断歩道では小旗を持った婦警が人々を誘導する。

清華大学は月曜日以外8時半、午後1時半に門を開け、各3千人を限度に見学者を受け入れている。ドライバーに金を渡し、家族4人で宅配便の車に隠れて入場した者や、朝4時から並ぶ者も出たそう。

北京大学も同様だ。見学者の入場を東側門に限定。午後3時半には東側門から塀に沿って北側まで700メートルもの列ができ、数名が警備にあたる。16時になると、もう並ばないように声がかかる。門の開放時間は朝7時半から11時半と午後2時から5時までだ。

人気の理由の一つは子どもに大学を見せて、学習意欲や理想をもたせようという親心があるようだ。団体やサマーキャンプでやってくる人も多い。

山西からきた母親の感想は、子どもに目標を持たせたいから来たが、暑いところ並んで10分足らず見たところで、何の内容もなかったというものだ。

清華大学の人数制限も北京大学の時間制限も、多くの人を待たせ、失望させている。夏休み中の大学に入って何の不都合があるのかという意見がある一方で大学は観光地ではないのだから秩序の維持は必要だと言う意見もある。

入場制限が始まったのは7年前。10年ほど前から特に夏休みに見学者による交通渋滞が見られるようになり、規定や管理組織ができ、人数や入場時間、見学場所の制限、団体の予約制などができてきた。以来、毎年開放について論争が繰り返されている。

日が落ちようやく人影がまばらになった北京大学の塀の脇にも清華大学の西門に至る歩道にも、大量のゴミが残されていた。

『中国ネット』2017年8月16日

彼は会員 折り紙自販機

中川啓造（会員）



制作者である岡野千鶴さんと折り紙自販機

真夏の炎天下、汗がしたたる中ものともせず自転車を使い足で必死にこいで山道を走って行きました。

目的地にある折り紙の自販機までは歩くと1時間弱、自転車ならば20分程の距離ということなのですが、初めての土地の上、道案内となるナビも無い中、自分のカンと地元民に尋ねながらの目的地探しでした。

当日は、午後2時内子発の高松行きJR切符を手配しており、自転車は2時間のレンタルなので非常に限られた条件下での行動でした。30分ぐらいしてやっと目的地を見つけ、目指す折り紙自販機が目に見え込んできた時には正直ホッとしました。

場所は付近には畑が点々と広

がり、持主は岡野商店さんという田舎の雑貨屋で、ネットで見た折り紙自販機が店先にポツンと立っていました。

早速店内に飛び込み、主人公の岡野千鶴さんにお話をうかがいました。

2008年、成人識別カードJasdo（タスポ）導入が転機となり、タバコ自動販売機を買い換えねばならなくなり、買い換えても採算が合いそうにないの自販機を撤去しよう、と考えていた矢先です。

すると家の前にある散髪屋さんから提案があり、「タバコの代わりに岡野さんが得意である折り紙を入れたらどうだ」ということがキッカケでした。

彼女は以前、衰退する内子名

産の手すき和紙に歯止めをかけるため和紙創作展に年2回出展されており、その技術を活かしたら、ということでした。

和紙はコストが高くつき、また子どもに手の届く範囲内で買ってもらうため、デパートの包装紙やチラシを利用して試行錯誤を重ねながらここまで来た、という経過でした。

品物は3種類あり、制作する手間に応じて10円、30円、50円と分かれております。

10円としては、紙ヒコーキ、手裏剣、紙風船など6種類が自販機が一番下に横に並べられており、一番力を入れておられる30円モノは、6種類一番上に横向きに並べられており、2か月に一度その季節に応じたテーマ性のあるモノを制作し、1月は正月、3月はおひな様と続き、7月は七夕で彦星と織姫でした。真ん中の段は50円モノで一番手間がかかるモノ、「ピョンピョン動くカエル」「くちばしがパクパク動くカラス」「バオーと鼻が動くゾウ」

など5種類横に並んでいます。そして、お金を入れると出てくる折り紙はこれも手作りのケースに入っています。

僕はあつかましくも岡野さんの工房に入れていただき展示品以外のモノも見せていただき、いろいろとお話を聞かせていただきました。

当初買いに来るのは、地元の子どもで手裏剣を主体にした10円モノで売れてもせいぜい1日2〜3個。それがマスコミによって知れ渡った結果、大人の方が多くなったそうです。

小一時間程お話を聞いた印象は非常に謙虚な方で、取材に見える方のために冷房のみのエアコン工事を当日設置された、優しい気配りのできる方でした。

普通のおばちゃんの手一つでお金もほとんどかけず折り紙を通じて人に喜ばれる様子は、正に天台宗を開かれた最澄が述べた「一隅を照らす」ということに他ならぬと感じ、帰り道では「ほっこり」とした気持ちになりました。

合掌

彼は會員

国際善隣協会「日中国交正常化45周年」 北京市・甘肅省の旅

「越过火焰山朝西天取经」

日野正子（會員）

旅行に参加した最大の動機は中国の内陸部を見たいという願いでした。北京へは1989年

1月以来28年ぶりでした。

善隣植林地のある甘肅省永靖県（7月23日）、康楽県（24日）をめぐり、蘭州へ（25日）。23

日に劉家峡ダム湖を高速艇で炳靈寺の石窟見学に向かう途中、青い黄河に黄色い水の洮河が合流してコバルトブルーの湖水が泥色に変わる境界線を目撃しましたが、美しい湖面に見とれて心地よい記憶の底に半ばまどろんでいた私は、このまたとないシャッターチャンス逃してしまいました。

28日、北京での最後の訪問先中国国際放送局（CRI）では、日本語部の王小燕アナウンサーからCRIの概要と中日交流活

動について熱のこもった説明を受けました。

会議室から食堂室に移動中に小燕さんと短い会話を交わしました。小燕さんとは、当協会の

矢吹晋氏をはじめ、神崎民子氏（同時通訳者）、故青木昌彦氏（経済学者）など各界の大先達について話題を共有できることを知り、彼女に対する尊敬の念

と親愛の情が高まりました。それで、食事の席で彼女から、

「大地の子」（原作…山崎豊子）のモデルとなった人物が中国の養父母のために自費出版した本『我在中国75年』を日本語に翻訳してくれる人を探しているのですが……という呼びかけがあった時、それに応えることに迷いはありませんでした。小燕さんはその場で著者の王林起氏に電

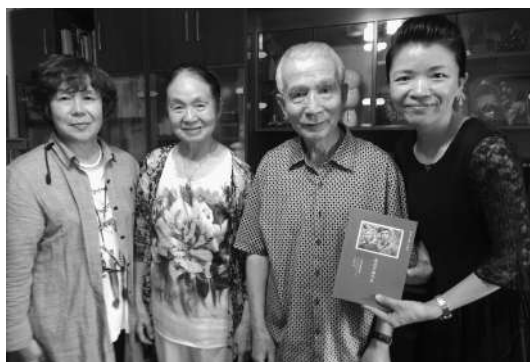
村田さんと牛木さんの同行を得て、ご自宅まで伺うことになりました。

著者のご自宅に伺う途中、旅

行中に書いた絵ハガキを北京で投函したく、小燕さんの案内で、郵便局に寄るのに今流行のGPS活用・乗り捨てレンタル自転車に乗るという得難い経験もしました。

王林起さんは近くまで出迎えてくださり、ご夫妻で、涼しい部屋と温かいお茶とよく冷えたクルミの缶飲料でもてなしてくださいました。午前中母上を見舞ったばかりという撮りたての家族写真と、古いアルバムを見せていただき、お話をうかがいました。最後に記念写真を撮り、本にサインをいただき、お暇しました。小燕さんのメールによ

話をし、大変喜ばれた由、出来ればこれからお会いしたいとの申し出を受け、



中央が王林起夫妻。左が筆者。

ると、バス停でお別れした後、王さんは大変ほっとした表情で、「心の中で念じ続けると、物事は成就する。今回も念力が通じたようです」とポツリと言われたそうです。

甘肅省↓北京市とめぐったこの度の国際善隣協会の旅は、艱難辛苦の旅でした。『孫悟空』の中に「越过火焰山朝西天取经」という話がありますが、火焰山も見た私にとりまして、その御経は『我在中国75年』であったような気がいたします。

コラム

〈腰折れ文〉二、

渡邊澄子（会員）

前泊を含め九日間の本協会企画の日中国交正常化四五周年北京市・甘肅省訪問旅行に参加させて頂いた。同行の皆さん、お世話になりました。この旅行は私にとってウォーキング・ツアーだった。私は著名な医師の健康診断を受けている。検査では異常なしが続いているが、毎度、せめて二十分歩く運動を毎日するようにと言われるが、面倒と忙しさから守ったことがない。石窟見学と遙かに見上げる頂上のお寺までの白塔山への石段登りは、五年分の運動となっただろう。石窟は、三度行ったが何度でも行きたい大同の見事な雲崗石窟に比べると孫以下で大回りの歩行距離に見合う価値ありかと呟いてしまった。おっと、失礼。お許しを。一番興味深かったのは麋鹿苑だった。世の中に

こんな動物のいることを初めて知って興味津々。確かに一見、鹿のようだが馬・牛・驢馬（それから何だったかメモした自分の字が読めない）などの混じっている動物なのだ。こんな動物がいてそれを見たくわくわく感を友人たちに吹聴するつもり。そうぞ、四日目、蘭州で街歩きをしていたら到る所に「冬虫夏草」の看板。漢方薬がメインの街らしい。遠い以前、「冬虫夏草」が万能薬と聞かされて物凄く高価だったのに思い切って買って帰ったが、結局三年後に捨てたことを思い出した。路線バスの後部や街のあちこちに自由、平和、愛国、平等、文化重厚、友善、公正、誠信、民主文明、創建国家、国家富強等々のスローガンが掲げられていた。これ厳守されてるの？大変ね、

と言ったらスローガンですと学生さんが笑った。

最期の訪問先国際放送局では前日に発言を封印されていたが、無視して発言してしまった。お相手は看板キャスターだそうだが、忙しく走り回りながら食事のとき、私と話したいと側にいらして、時間のないのが残念とあわただしくあれこれ話し、特に林京子については盛り上がり、北京に来ることがあったら是非連絡をしてほしい、ゆっくり話し合いたいと言ってくれたのは嬉しかった。

中国に計三年近くもいた間、食事には堪能していたのに、何故か今回は食いしん坊の私なのに料理に手が出ず、路傍で山と積まれて売られている最盛期の、日本と比べてべらぼうに安い西瓜（大の好物）ばかり食べて満足した。話題は尽きないが紙幅がない。品川駅で夕食用に駅弁を買って帰宅したのは七時半過ぎ。山のような新聞と郵便物にうんざり。翌日、疲労から緩慢な動作でこの山にアタックして

いたら、長崎放送局から三人が大きな機材を抱えて林京子取材にやって来た。宅配のケース未着だったので疲労の浮き出たスッピンで七時間もの取材に応じた。九日の長崎での放送を思うと鳥肌が立つ。

◆原稿・写真など大募集◆

会員の皆様から、原稿・写真などを幅広く募集いたします。

○「みんなの写真館」

表紙および裏表紙の写真や絵画などを募集します。写真についての短いコメントも付けてください。思い出の写真、珍しい写真、力作の写真、ペット自慢、お孫さん自慢、なんでもお待ちしています。

○「旅行記」「体験記」「書評」「詩」「小説」など

多様な原稿を募集いたします。

○編集部体制で「善隣」誌の編集に当たります

会員の皆様にご参加いただけるよう試みてまいります。どうぞ、原稿の長さ、書き方、原稿送付方法等、お気軽にご相談ください。事務局にお伝えいただければ、追って編集部からご連絡をさせていただきます。（編集部）

陶々俳壇

兼題：「宝」「胸」「秘」

【宝】

○九十歳宝の硯洗ひけり
水引の花結びたるわが宝

花梯姑祖父の遺せし宝の木

子は宝秋の組閣の目玉てふ

○財宝もいらぬと覚ゆ暑さかな

子は宝孫も曾孫も豊の秋

○秋へ秋へと向かふバス旅宝川

ポケットに宝ざくざく木の実かな

大きな胸の波乗り著し浜の秋

○もろ肌脱いで男度胸の夏祭

水中花透かされてゐる胸の内

○胸に手を当てる健やか秋暑し

大願を胸に秘めたる夜学生

紅葉を胸にきざみて山下の

薄っぺらなトルソーの胸秋暑し

花伝書の秘すれば花や今朝の秋

○山霧の秘するところや寺の鐘

淋しさを秘してひとりの濁り酒

○立葵妻に秘めごとできぬ質

短夜の底ひに秘することのあり

高西風や秘するものなき能登の巖

○千年の大樹秘境の蟬しぐれ

秘術めく念仏踊りや佃島

◎◎由紀子選

七福神巡り

馬場由紀子

蒸し暑い日が続いております八月も中頃、陶陶句会のが次々と送られてきました。改めていうのも何ですが、七名だったのです。

囲碁の名人和水さんから。子は宝孫も曾孫も豊の秋・胸たたき俺に任せと雲の峰・千年の大樹秘境の蟬しぐれ・優しさで力強さに溢れた句です。芸も忍ち我が物とされるイケメン。陶陶会の弁財天なり！

いつもにこやかな微笑みを湛えていらつしやるこの方は、寿老人でしょうか。九十歳宝の硯洗ひけり・大きな胸の波乗り著し浜の秋・花伝書の秘すれば花や今朝の秋 南山さんそのものが宝です。

まあいいお顔が布袋尊を思わせる紅杓さん。秋へ秋へと向かふバス旅宝川・水中花透かされてゐる胸の内・高西風や秘するものなき能登の巖 旅が御好きで各地で弥勒菩薩のご利益をもたらしていらつしやることでしょう。

陶陶会の頼りになる兄貴、宏太さん。人望の厚さはさながら福祿寿。紅葉を胸にきざみて山下の・水引の花結びたるわが宝・山霧の秘するところや寺の鐘 これからもお願します。

会津出身、義理人情に厚いのが善一さん。財宝もいらぬと覚ゆ暑さかな・胸に手を当てる健やか秋暑し・短夜の底ひに秘することのあり 穏やかな表情しか知らないが政治家時代は大黒天の形相になることも？

水戸っぼのまもるさんは唯一の日本人、恵比寿太。立葵妻に秘めごとできぬ質・もろ肌脱いで男度胸の夏祭・花梯姑祖父の遺せし宝の木 日本の神は妻にはめっぽう弱いよつです。強くて優しいとつことに。

若杉さんは引き上げに際して貴重な蔵書を守られた強者。毘沙門天に相応しいお方。子は宝秋の組閣の目玉てふ・大願を胸に秘めたる夜学生・淋しさを秘してひとりの濁り酒 邪鬼を足下に、知を守るために闘つヒーローです。

新橋一丁目、七福神巡りでございます。畏れ多くも私、この宝の船に同乗させていただいております。夏休みも終わり、九月から新たな出航です。

東京運河クルーズ

橋本公佑

盛夏も終わりの頃、東京運河クルーズに参加した。日本橋船着き場を出航し、日本橋川を上り神田川に出る。途中日本橋、常盤橋、JR外濠橋近くをくぐり神田橋、錦橋、一ツ橋、雉子橋、組橋など十数箇所の橋をくぐり、水道橋近くで神田川に出る。神田川を下り後楽園橋、水道橋、御茶ノ水橋、聖橋、丸の内線、総武線、山手線をくぐり浅草橋、柳橋を経て隅田川に出る。隅田川はさすがに川幅が広い。とは言っても旧満洲国（現中国東北部）松花江、黒龍江には比べものにならない。清洲橋の真ん中にスカイツリーを望む絶景を見て永代橋手前で日本橋川に入り茅場橋、江戸橋、日本橋をへて船着き場に戻る行程であった。

夏の川スカイツリー背に清洲橋
コースから外れるが、更に下ると勝鬨橋、築地大橋がかかっている。勝鬨橋（長さ246m）は8月7日の「機械の日」に機械遺産と認められたと新聞は伝える。1940年に開通した可動橋で市場のある築地と現在は高層マンションが立ち並ぶ勝鬨を結ぶ。可動部は片側で重さが千トンあり、半径7・4mの歯車とモーターで駆動。輸送の主役が船からトラックに替り、1970年に開橋を停止した。
機械の日勝鬨橋が機械遺産に

協力会 通信

◆理事会の報告

8月度は、理事会を休会とし、7月度の理事会議事録は9月の理事会で承認されたあと、『善隣』11月号に掲載される予定です。

◆中国科学技術交流センター幹部のご来訪

当協会は、中国科学技術交流センターと提携し、中国側から要請のあった技術者（主としてシルバーの方）を民間レベルで中国へ紹介することを3年前から実施、継続しているが、8月9日にその中国側の幹部3名（呉程副主任・劉曉燕通訳・劉哲担当）が協会をご来訪、懇談および今後の展開について意見交換を行った。（写真：表2上）

◆中国旅行の帰国報告茶話会

7月22日～29日の13名による中国旅行は終わり、8月3日に帰国報告茶話会を開催した。初

めに訪問地の想い出を写真で送り、参加者が一人ずつコメントを述べて、質疑も含め充実した会となった。

◆全国戦没者追悼式へ出席

8月15日、日本武道館での「全国戦没者追悼式」へ厚生労働省の招待で協会から3名が出席した。式典は、午前11時51分開式、天皇皇后両陛下御臨席・国歌斉唱・式辞・内閣総理大臣・黙とう・天皇陛下のおことば・追悼の辞・衆議院議長、参議院議長、最高裁判所長官、遺族代表・天皇皇后両陛下御退席。このあと献花が続く、閉式となった。参加者は約6500名。この日、東京はどしゃぶりの雨となった。（事務局長 藤沼弘一）

同好会だより

〈謡曲会〉

10月31日例会 実施予定曲目

曲目	役割	地頭
富士太鼓	子方神保	堀野
鶴飼	シテ土屋	堀野
紅葉狩	シテ神保	堀野
	ワキ土屋	堀野
	ワキツレ澤村	堀野
	鶴川	堀野

みんなの写真館

橋の対称美（表紙）

隅田川に架かる3つの橋、清洲橋・永代橋・勝鬃橋はいずれも国の重要文化財に指定されているが、男性美の永代橋、機能的な勝鬃橋にたいして清洲橋は女性美のシルエットの代表であり美しい。その美しい姿の中心に地震を克服した優れた技術の結晶であるスカイツリーが聳えその対称美に感動し思わずシャッターをきった。（橋本公佑）

イースター島・モアイ像の前で（表4上）

9年前、親友の神保達氏と南半球95日間の船旅に出掛けました。マゼラン海峡入口のプンタ・アレナスから太平洋を7日間かけてイースター島に到着しました。イースター島は、次のタヒチまで7日間島が無く、まさに絶海の孤島と言われています。タヒチからニューカレドニア、ケアンズ（オーストラリア）、

船旅の最後にはラバウルに寄港し、旧日本海軍南方最前線基地跡を訪れ、多くの英霊に鎮魂の祈りを捧げました。神保氏とは寮生活を共にした70年来の親友で、現在神保氏92歳、私は90歳、共に元気で頑張っています。（寺西修司）

吹割の滝（表4下）

夏休みの初日、「山の日」に家族旅行で「吹割の滝」を訪れました。ここは、群馬県沼田市利根町にあり、今年は40年ぶりの雨が続いたこともあり、雨量も一杯で大いに目を楽しませてくれました。吹割の滝は「東洋のナイアガラ」と呼ばれ、群馬県の人気観光地で、昭和11年に国の天然記念物に指定されました。「吹割の滝」は「日本の滝100選」にも選ばれています。滝周辺の森は遊歩道があり、皆で散策しました。写真の遠くに見える吊り橋から見える景色は特におススメです！（藤沼弘一）

2017年10月の行事予定

- 4日(水) 13:00 俳句会
投句の場合は兼題「すがれ虫、向」及び当季雑詠
- 5日(木) 15:00 ○公開フォーラム
「発展する高等教育—中国の現状、日本と比較しつつ」
苑復傑氏(放送大学教養学部教授)
- 6日(金) 14:00 近現代史講座
- 12日(木) 14:00 ○公開フォーラム
「『日本人』の証明とは何なのか—戸籍を失った『国民』たち」
遠藤正敬氏(早稲田大学台湾研究所非常勤次席研究員)
- 13日(金) 11:00 一石会囲碁例会
- 17日(火) 14:00 謡曲会(松木先生稽古日)
- 19日(木) 18:30 ◎公開アジア研究懇話会
「北京ぶらり旅21日」
矢吹晋氏(横浜市立大学名誉教授、当会学術顧問)
- 24日(火) 14:00 謡曲会(松木先生稽古日)
- 27日(金) 16:00 ○公開「善隣中国塾」
※参加希望の方は事前に事務局まで申し込みください。
- 31日(火) 14:00 謡曲会例会

10月の会議予定

2日(月) 14:00	環境委員会	10日(火) 14:00	国際交流委員会
5日(木) <u>16:30</u>	講演委員会	11日(水) 14:00	財政委員会
〃 <u>16:30</u>	広報委員会	19日(木) 14:00	理事会(第11回)
6日(金) <u>10:30</u>	監事会	27日(金) 13:00	諮問会
6日(金) 14:00	東北委員会		

※会員外一般聴講者の参加費は、◎印：1000円、○印：500円、無印：無料です。

※下線は通常日程に変更あり

みんなの 写真館



INTERNATIONAL GOOD NEIGHBORHOOD ASSOCIATION (IGNA)
<http://www.kokusaizenrin.com>

ISSN 0386-1034
二〇一七年（平成）二十九年 十月一日・毎月一日発行

「善隣」第四八四号（通巻七五一）

発行所

〒一〇五〇〇〇四 東京都港区新橋一五五
一般社団法人 国際善隣協会
電話 〇三三五七三三〇五（番代表）